



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

ソフィア・アーカイブズ 年間活動報告書

2020年度～2024年度

ソフィア・アーカイブズ年間活動報告書

2020 年度～ 2024 年度

I 運営編

1	ソフィア・アーカイブズの設置について	05
1-1	設置の経緯	05
1-2	設置時の組織	05
1-3	設置規程	05
1-4	設置時の課題と展望	05
2	諸規程の策定	06
2-1	ソフィア・アーカイブズ所蔵文書利用等規程	06
2-1-1	策定の経緯	06
2-1-2	策定の過程	06
2-1-3	概要と特徴	07
2-1-4	その他	09
2-2	デジタル・データベース公開判断基準（内規）	09
2-2-1	策定の経緯・過程	09
2-2-2	概要と特徴・課題	09
3	ソフィア・アーカイブズ運営委員会	12
3-1	ソフィア・アーカイブズ運営委員会の活動	12
3-2	運営委員一覧（巻末資料 1）	15
4	各種ワーキンググループ	15
4-1	6 号館 1 階展示物ワーキンググループ	15
4-1-1	活動	15
4-1-2	メンバー一覧（巻末資料 2）	17
4-2	設置中高アーカイブズ・ワーキンググループ	17
4-2-1	活動	17
4-2-2	メンバー一覧（巻末資料 3）	17

Ⅱ 活動編

1	史資料の収集、整理および保存	18
1-1	史資料受領（収集）状況	18
1-2	史資料整理状況	18
1-2-1	史資料整理（目録登録、デジタル化など）	18
1-2-2	史資料整理（各種新聞見出し目録登録）	19
2	調査・研究およびその成果の公開	19
2-1	「Sophia Chronicle since 1913」の開始	19
2-2	設置校に関する調査	19
2-2-1	栄光学園中学高等学校	19
2-2-2	六甲学院中学校・高等学校	20
2-2-3	広島学院中学校・高等学校	20
2-2-4	上智福岡中学高等学校	20
3	展示等の活動	20
3-1	6号館1階企画展示実績（巻末資料4～6）	20
3-1-1	2018年度	20
3-1-2	2019年度	20
3-1-3	2020年度	21
3-1-4	2021年度	21
3-1-5	2022年度	22
3-1-6	2023年度	22
3-1-7	2024年度	23
3-2	グローバルインターフェース、マルチマップテーブル	23
3-2-1	グローバルインターフェース（地球儀型ディスプレイ）	23
3-2-2	マルチマップテーブル（大型モニター）	23
3-3	オンライン企画展	24
3-4	常設展示（図書館9階ソフィア・アーカイブズ室内）	29
3-4-1	2023年度	29
3-4-2	2024年度	29
3-5	学内のその他の場所での展示および他機関主催企画展への資料提供	29

4	史資料の公開およびレファレンスサービス	29
4-1	ホームページの開設	29
4-2	ソフィア・アーカイブズデータベースの開設	30
4-3	レファレンスサービス	30
4-4	見学	30
5	年史等の編纂その他出版に関する事項	31
5-1	ソフィア・アーカイブズブックレット	31
5-1-1	ブックレット No.1	31
5-1-2	ブックレット No.2	31
5-1-3	ブックレット No.3	31
5-1-4	ブックレット No.4	31
6	本学院および設置校の自校史教育に関する事項	31
6-1	学芸員課程との連携	31
6-1-1	博物館実習受け入れ	32
6-1-1-1	2021 年度	32
6-1-1-2	2022 年度	32
6-1-1-3	2023 年度	32
6-1-1-4	2024 年度	32
6-1-2	学芸員課程授業	33
6-1-2-1	2021 年度	33
6-1-2-2	2022 年度	33
6-1-2-3	2023 年度	33
6-1-2-4	2024 年度	33
7	その他の活動	33
7-1	各種研修	33
7-2	授業への協力	33
7-3	学外教育機関への協力	34
7-4	その他（巻末資料 7）	34

8	構成員	34
8-1	2020 年度	34
8-2	2021 年度	34
8-3	2022 年度	34
8-4	2023 年度	35
8-5	2024 年度	35
9	今後の課題	35
	巻末資料 1 ～ 7	37

I 運営編

■ 1 ソフィア・アーカイブズの設置について

総務局広報グループにて行っていた上智大学史資料室業務を組織化し、2020年4月1日に上智学院ソフィア・アーカイブズが設置された。

1-1 設置の経緯

GL2.1（当時）に掲げたとおり、イエズス会教育精神の理解と浸透のための基盤を整備すること、また設置校を含む学院に関する歴史的資料を適切に収集・管理・公開する体制を整えるため、総務局広報グループのもとにある上智大学史資料室の改組を検討した。

組織としては、法人全体をみて将来のために必要な史資料の収集、活用等の方針を策定する機能が必要という意見から、学院の直下に組織を置くこととし、大学だけではなく法人のもとに設置された短期大学部、社会福祉専門学校、設置中高4校のアーカイブズとの連携、協力も行うこととした。

また、現状では必要な史資料を確実に収集する仕組みがなく、廃棄、散逸している恐れがあるとの意見から、文書等管理規程の見直し（保存期間、保存方法の規定）、各部署での保存期間終了後の文書の取り扱い（廃棄またはアーカイブズへの移管）について各部署と連携し、適切に保存する体制づくりも検討すべきことと位置付けられた。

収集と同じく重要視されたのは、収集した史資料を公開、活用する場である6号館展示の企画、運営体制の明確化であった。これについては、総務局広報グループと協力して活動しながら検討することとした。

最大の課題であった、人的問題（専任職員1人のみで担当しており、業務の継続性が担保されない。「評価・選別」ができる専門人材が配置されていない。）については、複数人の配置とはなったものの、アーカイブズに関する専門知識、イエズス会に関する知識の習得に関しては、専門員の配置がないまま、個人の自己研鑽に依存し、活動を開始することとなった。

1-2 設置時の組織

上智学院直下に上智学院ソフィア・アーカイブズを置く。館長の下に、アーカイブズ運営委員会を置く。

1-3 設置規程

ソフィア・アーカイブズ規程を2020年4月1日に制定した。

1-4 設置時の課題と展望

ソフィア・アーカイブズ規程第3条において活動目的を定めている。その目的を達成するために、第4条に具体的な活動が定められている。

- （1）資料の収集、整理及び保存
- （2）調査・研究及びその成果の公開
- （3）展示会等の開催
- （4）資料の公開及びレファレンスサービス
- （5）年史等の編纂その他出版に関する事項
- （6）本学院及び設置校の自校史教育に関する事

(7) その他前条に定める目的の達成に必要な事項

(1)(2)については、行政的活動としての文書保存を、教育、研究、社会貢献活動へ繋げることを視野に入れ活動する必要がある。また(6)については、将来的に学校史編纂への展開を検討する。実際に活動を開始してみると、今までには気付かなかった、デジタルトランスフォーメーション時代におけるオープンデジタル資料の取扱いについて、今後検討していく必要があることも課題として認識できた。

■ 2 諸規程の策定

アーカイブズの運営は、さまざまな規程を必要とする。機関自体の定義・機能に関するものはもちろん、肝要なのはアーカイブそのもの、諸資料の移管・選別、保管、利用等に関する規程だろう。大学アーカイブズも、多くはこの機関規程、所蔵文書等利用規程によって成り立っている。当アーカイブズでは、機関規程は設置に先立って制定されたため、すでに1で扱った。ここでは、主に所蔵文書等利用規程の策定について整理しておく。

2-1 ソフィア・アーカイブズ所蔵文書利用等規程

2-1-1 策定の経緯

当アーカイブズが設置され、辞令が交付された2020年7月13日の段階で、所員（館長北條・副館長木村・事務長大日方・職員大塚）による簡単なミーティングがなされた。以降、メールでの情報交換、対面での意見交換を何度か行い、前身である史資料室の業務の共有、アーカイブズとしての再編・拡充に当たっての課題等を話しあうなか、所蔵資料の保管・利用について厳密な規程を設ける必要が指摘された。旧史資料室においても、もちろんすでに所蔵資料の保管・利用が行われていたが、それはいわば慣習に基づくものであり、先行する（主に国公立の）大学アーカイブズの具備するような規程を設けていなかったのである。第一案の策定は、一応のアーカイブズの知識を持つ北條が担うこととなったが、2020年度は北條がサバティカル・リープを取得していたこと、また新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の感染拡大にともないアーカイブズの運営が限定的にならざるをえないこと等があり、当該作業も大幅に遅滞、完成・施行までに1年余りを要することとなった。

2-1-2 策定の過程

以下、幾つかの時期に区切り策定作業の経過を記す。

① 2020年8～9月 第一案の策定

まず北條は、他の大学アーカイブズの持つ文書利用関係諸規程を収集、内容を分析し、比較・検討する作業から開始した。当時は未だ私立大学のアーカイブズ自体が少なく、また規程を公開している機関も稀であったため、国公立の大学アーカイブズを中心とする約20の機関を対象に、約50の関連規程を確認、なかでも詳細な内容を持つ広島大学の諸規程（「広島大学文書館規則」「同文書館特定歴史公文書等利用等規則」「同文書館特定歴史公文書等の利用等に関する内規」「同文書館学術的資料の利用等に関する内規」「同文書館における公文書管理法に基づく特定歴史公文書等の利用請求に対する処分に係る審査基準」「同閲覧室における特定歴史公文書等の利用に係る遵守事項等に関する定め」「同文書館特定歴史公文書等の複写等に関する定め」）、大阪大学の諸規程（「大阪大学アーカイブズ規程」「同アーカイブズ特定歴史公文書等利用等規程」「同アーカイブズ特定歴史公文書等利用細則」「同アーカイブズ歴史資料等利用内規」「同アーカイブズにおける公文書管理法に基づく利用請求に対する処分に係る審査基準」）を重視し、両規程の策定に関わった大阪大学アーカイブズ教授菅真城氏へのヒヤリングも実施しつつ、文書利用関連規程の意義・目的・構造、最低限の内容などを抽

出した。また、これらの規程は「公文書等の管理に関する法律」（平成 21 年法律第 66 号、以下「公文書管理法」と略称）、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成 13 年法律第 140 号、以下「独立行政法人情報公開法」と略称）、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 58 号）、「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」（平成 11 年法律第 128 号）等を母法（法的根拠）としているため、それらの内容、文書利用関連規程との関係も含めて分析し、必要な条文・概念・定義について策定していった。その際、原則としては、「学校教育法」（昭和 22 年法律第 26 号）第 9 章（大学）、「私立学校法」（昭和 24 年法律第 270 号）等に基づく教育・研究機関としての公共性、社会貢献の義務・責任に照らし、国公立の大学アーカイブズが持つ諸規程の方針に準拠する形を採った。ただし、私立大学には適さない、あるいは必要のない条文については削除もしくは改変し、もしくは本学院の事情に則して調整・修正を加えた。とくに、各条文の制定の根拠や関連規程については、キリスト教ヒューマニズムに基づく本学の建学の精神をはじめ、本学院独自の文書等管理規程、個人情報保護規程、学術研究倫理ガイドライン、「人を対象とする研究」に関するガイドライン等を参照することにした（詳しくは 2-1-3 を参照）。

このようにして、9 月 18 日には第一案を完成、当アーカイブズ内で意見交換をして補足・修正を行い、9 月 28 日には第 1 回運営委員会にて、とくに第 1 条(目的)・第 9 条(個人情報漏えい防止のために必要な措置)・第 12 条(利用請求の取り扱い)における制定根拠の問題、学院や国家の情報に関する公開の問題について審議を行った。この間、内容的には大きな改変はなく、文言・表現等の微調整を経て第二案を作成した。

② 2020 年 10 月～2021 年 2 月 総務局法務チームによるチェック／修正作業

運営委員会にて承認を得た第二案をもとに、まずはメールによるファイルのやり取りを通じ、本学院総務局法務チーム（岩瀬俊和・田中啓朗）による標記・内容、学院諸規程との整合性等に関するチェックを受けた。具体的には、法務チームによる第二案（Word の文書ファイル）への注記を逐一当アーカイブズ内で検討、修正・回答（新案の作成）することを繰り返し、また 12 月 14 日には法務チームとの直接のミーティングも行って（アーカイブズ側：北條・木村・大塚・大日方）、最終的には 2 月 12 日作成の第五案をもって決定稿とした。

③ 2021 年 4 月～12 月 各会議体への付議・施行

第五案は、2021 年 3 月 17 日開催の第 2 回運営委員会、11 月 18 日開催の局長会議（館長がオブザーバーとして出席し説明）、11 月 24 日開催の高等教育常務会にて付議・承認され、12 月 1 日をもって施行された。そののち速やかに、社会貢献の一環として、当アーカイブズのホームページにて全文を公開した。

2-1-3 概要と特徴

先述したとおり、国公立大学アーカイブズの所蔵文書利用等規程は、「公文書管理法」および「独立行政法人情報公開法」を母法とするが、私立大学アーカイブズはかかる法的根拠を持たない。しかし、「学校教育法」「私立学校法」等に基づく教育・研究機関としての公共性に照らし、原則として国公立大学アーカイブズの所蔵文書利用等規程に準拠した内容となっている。そのうえで、私立大学のアーカイブズ規程としての最大の特徴は、冒頭第 1 章第 1 条にて、母法に替わる制定の根拠を「キリスト教ヒューマニズムと建学の精神に基づく、他者のための世界の構築と公共性の維持」に求めている点といえよう。

第 1 条 ソフィア・アーカイブズ（以下、「アーカイブズ」という。）は、キリスト教ヒューマニズムと学校法人上智学院（以下「本学院」という。）各設置校（以下「各校」という。）の建学の精神に則り、他者のための世界の構築と公共性の維持に貢献するため、ソフィア・アーカイブズ規程（以下、「アーカイブズ規程」という。）第 2 条から第 4 条に基づき、本学院に係る法人事務文書、特定歴史文書の収集、及び本学院各部局とその関係者より移管・寄贈・寄託された法人事務文書、特定歴史文書の適切な整理・

保存・公開・廃棄、及び調査・研究を行うために必要な事項を定める。

私立の学校法人が生産する諸記録は、独立行政法人である国公立大学のそれのように、法的レベルにおいては公文書ではありえない。しかし、以上のいわば、一般社会に共有される公共の倫理に基づいて考えた場合、本学院が生産し当アーカイブズが所管する資料も、「公文書管理法」第2条第4項に規定される「行政文書」、同第5項に規定される「法人文書」に準じる公共性を持ちうる。そこで、当アーカイブズの所管資料もかかる法律の規程に基づき、それぞれ「法人事務文書」（本学院にて職務上作成される事務文書）、「特定歴史文書」（歴史資料として重要な法人事務文書）に区分・定義している（第1章）。そして以下、これら二種の文書の適切な整理・保存（第2章）、利用（第3章）、破棄（第4章）、および調査・研究を行うために必要な事項も、やはり「公文書管理法」「独立行政法人情報公開法」等を参照し、適宜修正・削除・補足を加えつつ定めているのである。

その点で特記しておきたいのは、第9条（個人情報漏えい防止のために必要な措置）・第12条（利用請求の取扱い）に関する情報公開の問題である。

第9条では、法人事務文書については本学院の「個人情報の保護に関する規程」（平成15年4月1日制定）その他関連規程に基づき、特定歴史文書については「上智大学学術研究倫理ガイドライン」（平成22年1月1日制定）、「上智大学『人を対象とする研究』に関するガイドライン」（平成22年4月1日制定）に準拠し、漏洩の防止のための措置を定めている。国公立大学のアーカイブズの場合には、本条に当たる条文の母法は「公文書管理法」第15条第3項となるが、私立大学アーカイブズの規程としてはこれを直接典拠にできないため、「上智大学学術研究倫理ガイドライン」「上智大学『人を対象とする研究』に関するガイドライン」に準拠する形とした。

第12条については、文書に利用を制限する情報が含まれている場合の規程で、ア）一部を除く個人情報、イ）他法人や事業を営む個人の権利・利益等を害するおそれがある情報、ウ）本学院・他法人の検討中の事項で特定の者の利害に影響するもの、エ）国公立の機関・法人の情報で公開により事業運営に支障を来すもの、がそれぞれ該当する。国公立大学のアーカイブズの場合、当該規程の母法は「独立行政法人情報公開法」第5条に該当するが、これは国家に連なる機関であるがゆえに詳細な規程があり、例えば第4項においては、以下のよう文言が続いている。

四 国の機関、独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人が行う事務又は事業に関する情報であつて、公にすることにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの

イ 国の安全が害されるおそれ、他国若しくは国際機関との信頼関係が損なわれるおそれ又は他国若しくは国際機関との交渉上不利益を被るおそれ

ロ 犯罪の予防、鎮圧又は捜査その他の公共安全と秩序の維持に支障を及ぼすおそれ

この項はこのあとトまで掲げられるが、とくに上記の部分については、国家間の紛争や治安の攪乱にも影響する情報ということになる。かかる文書が当アーカイブズに存在する可能性も皆無ではないが、いしかえれば、私立大学の自律性を侵しかねない規程ともなりうる。そこで、運営委員会にて議論を尽くし、法務担当からのチェックやアドバイスも得て、「独立行政法人情報公開法」第5条各号の詳細は省略、より簡略な内容へ整理し現行の本規程第12条となった。

以上のとおり本規程の特徴は、国公立大学のアーカイブズ諸規程、その母法群をも参照しつつ、私立大学アーカイブズとしての自律性、カトリック大学としての独自性を活かし、適宜省略・補足・修正を加えている点にあるといえよう。

2-1-4 その他

本規程は、当アーカイブズのホームページ上にて公開したのち、類似の規程を持つ私立大学アーカイブズが少なかったこともあってか、一部から注目・評価された。例えば 2023 年 6 月 14 日には、学習院アーカイブズの依頼に基づき合同のオンライン会議が開かれ、北條より本規程の特徴、策定の経緯などについて説明、意見交換を行った。学習院アーカイブズからは、とくに国公立の大学アーカイブズの規程との関係、個人情報の公開に関する「時間の経過」の考慮、廃棄の規程について質問があった。

2-2 デジタル・データベース公開判断基準（内規）

2-2-1 策定の経緯・過程

当アーカイブズでは、2022 年 3 月 30 日より、デジタルアーカイブを公開中である（詳しくは、4-2 参照）。しかしそのデータ作成・公開準備作業中、すぐに大きな問題が浮上した。通常の文書利用・公開に際しては、利用者からの申請を受けてアーカイブズ側が公開の可否、部分公開の可能性などを検討、アーカイブズのみで決定が困難な場合には、運営委員会、弁護士の助言を受け、最終的に総務担当理事が判断することになる（「所蔵文書利用等規程」第 11 ～ 16・22 条）。公開を決定した場合、事前に第三者の個人情報等が含まれているかチェックしておき、連絡可能ならばその旨を通知して異議申し立てを受け付け、あらためて公開の可否を審議する必要もある。しかし、デジタルアーカイブを Web 上で一般公開する場合、収録するすべての資料について、上記のプロセスを事前に終了しておかねばならない（逆にいえば、上記のプロセスを経ていなければ一般公開が適わない）。とくに、画像・動画・音声の場合は、肖像権・著作権関係の処理が極めて難しい。

しかし、総務省『デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン』（総務省、2012 年）は、デジタルアーカイブ構築のメリットを列挙し推奨しつつ、技術的なことから、権利関係、個人情報関連への注意についてはほとんど説明されていない。よって、当初は必要に応じて担当者が参考資料を集め、アーカイブズ内で意見交換したうえで判断し、なるべく個人情報等の検討の必要のない資料を中心に公開・準備を進めていた。しかしかかる状況は効率的ではなく、やはり、権利処理にも熟達していない作業担当者が依拠できるような判断基準、ワークフローを策定する必要が高まった。策定の作業は、「所蔵文書利用等規程」に続き北條が担うことになった。2023 年 2 ～ 3 月頃に参考資料その他の情報収集を行い、未整理のうちはデジタルアーカイブ学会策定の「肖像権ガイドライン」を援用、2023 年 6 月 9 日の第 7 回運営委員会にて進捗状況を報告し方向性を審議、以降臨機に判断を行ってきた。結果、2025 年 3 月現在も明確な規程を作成するには至らず、上記「ガイドライン」を適宜ローカライズして対応している。以下、現行の方式の概要と特徴、課題を整理しておく。

2-2-2 概要と特徴・課題

デジタル・データベースの構築には必ずデジタル化という複製を要するが、著作権法 30 条によれば、それ自体が複製権の侵害となりうる。しかし、31 条 1 ～ 2 項によって、博物館や博物館相当施設のほか、当アーカイブズのような非営利のアーカイブズ機関にも、「保存のための」複製は許可されている。また、2018 年に改正された 47 条 3 項によって著作物のサムネイル画像が提供可能になったほか、同条 5 の 1 ～ 2 項によって、著作物を検索・解析するために軽微な利用を行うこと、その準備のためにデジタル化・データベース化を行うことも許容されている。ただし、パブリック・ドメイン（保護期間満了）となっていない著作物を、著作権法に抵触する方法で利用するときのみ、諸権利の制限規定を検討して利用許諾が必要か否か（公開が可能かどうか）判断してゆかねばならない。ワークフローは基本的に、①著作権関連の処理、②肖像権関連の処理、の 2 段階で行っている。

① 著作権関連の処理

「著作権法」では、2条1項1号に定められた著作物について、著者の権利をさまざまに定めている。その保護期間は、2018年にTPP関連法の制定・発行にともない複雑化、例えば著者が明瞭な著作物はその死後50年から70年へ、変名・無名の著作物や団体著作物はその公表後50年から70年へ改定されている。基本的には、パブリック・ドメイン（保護期間満了）となっていない著作物を、著作権法に抵触する方法で利用するときのみ、諸権利の制限規定を検討して利用許諾が必要か否か（公開が可能かどうか）判断してゆく。該当する権利は以下のとおりである。

a) 著作者人格権 →著作者の人格的利益を保護する。著作者の死亡により消滅するが、著作権が消滅した作品にも適用される場合がある。公表権（18条）、氏名表示権（19条）、同一性保持権（20条）、名誉声望保持権（113条6項）を含む。著作者物故の場合も、生存していれば人格権の侵害となるような行為をしてはならず（60条）、違反した場合は、遺族から名誉回復等の措置を求められる可能性がある（116条1項）。また類似の権利として、音楽や演劇等のパフォーマティブな著作物に適用される、実演家人格権がある。

b) 著作隣接権 →メディアには多層的な権利が併存するため、実演家の権利（90条2項目以下）、レコード製作者の権利（96条以下）、放送事業者の権利（98条以下）、有線放送事業者の権利（100条2項以下）が認められている。保護期間はTPP11により、いずれも実演後50年から70年に延長されたが、一般放送・有線放送は50年のままに留められている。また、1970年以前の実演は著作権で保護（著作者公表後／死後30年、未公表は発行後／興業後30年）されており、隣接権と比較して保護期間の長い方を適用する。

c) 外国著作物 →第二次世界大戦時の連合国側の著作物について、1952年のサンフランシスコ講和条約（「連合国及び連合国民の著作権の特例に関する法律」4・6条）により、保護期間を戦時に相当する期間（最大11年間）に換算する。

また、デジタル・データベースの多くを占める写真著作物・映像著作物については、いずれも著作権者は撮影者・製作者を意味するが、旧「著作権法」（1899年）、新「著作権法」（1970年）、新法改定（1997年、2004年）、TPPに基づく改定（2018年）等との関係で保護機関の延長があり、独自に注意を要する。

d) 写真著作物の扱い →保護期間は、旧法の適用される1970年12月31日までの撮影物は原則として発行後13年（発行されなかったものは種板製作の翌年から13年）、1971年1月1日～1997年3月24日のものは公表後50年、1997年3月25日～2018年12月28日のものは著作者死後50年、2018年12月29日以降のものは著作者死後70年で満了となる。よってワークフローとしては、①旧法による保護期間終期の確認→②新法が適用される1971年1月1日以降のものについて、保護期間の終期：公表後50年（①と比べ長い方）が新法改定の対象となるか確認→③改定の対象となる1997年3月25日以降のものについて、保護期間の終期：著作者死後50年（②と比べ長い方）がTPPによる改定の対象となるか確認→④改定の対象となる2018年12月29日以降のものについては、保護期間の終期（③と比べ長い方）は著作者死後70年を選ぶ、と進む。各段階で対象外となるものは、保護期間を満了している。

e) 映像作品著作物の扱い →映像作品については複数の製作者が存在しうするため、まず著作者が誰かに配慮が必要である。保護期間は、旧法の適用される1970年12月31日までの製作物は原則として発行後13年、1971年1月1日～2003年12月31日のものは公表後50年（創作後50年以内に非公表の場合創作後50年）、2004年1月1日以降のものは公表後70年（創作後70年以内に非公表の場合創作後70年）で満了となる。ただし、旧法下での保護期間は、例えば独創性があるかどうかによって保護期間が38年に延長されるなど、複雑な計算を要する場合がある。よってワークフローとしては、①旧法による保護期間終期の確認→②新法が適用される1971年1月1日以降のものについて、保護期間の終期：公表後50年（①と比べ長い方）が新法改定の対象となるか確認→③改定の対象となる2004年1月1日以降のものについて、保護期間の終期（②と比べ長い方）は公表後70年を選ぶ、と進む。各段階で対象外となるものは、保護期間

を満了している。

② 肖像権関連の処理

デジタル・データベースによって写真・映像等が公開される場合、著作権者のみならず、被写体の権利にも配慮しなければならない。主に、憲法 13 条（幸福追求権）を根拠とする肖像権、プライバシー権があり、個人の肖像や私生活を本人の許諾なく公開した場合、公益性との関係で侵害とみなされる場合がある。日本では、公益性が過大に認められ個人の権利が矮小化される傾向にあるため、学生の権利の保護を義務とする大学のアーカイブズは、とくに注意を要する。なお、これらは生存する個人のみを対象とするため、歴史上の人物等については配慮の必要ないが、公開のあり方によって遺族の人格権が侵害される場合、死者のプライバシーも一程度保護される。また、個人の氏名や肖像権が一定の顧客吸引力を有する場合、その排他的利用はプライバシー権の侵害に当たるため、著名人の写真等の公開については検討が必要である。

ところでこれらの問題は、総体的には個人情報保護の問題に該当する。インターネットの普及とそれとともに種々の問題の発生を受け 2017 年 5 月に「個人情報保護法」が改正、中小規模のアーカイブズもその対象となった。「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」76 条に基づき、学術研究機関や報道機関が学術研究目的や報道目的で個人情報を取り扱う場合、同法の義務規定の適用除外となっているが、国公立の大学アーカイブズに準拠する当アーカイブズでは、公益性と個人情報保護との関係については独立行政法人以上に慎重になったほうがよからう。また、EU では 2018 年 5 月に「一般データ保護規則（GDPR：General Data Protection Regulation）」が制定、EU 市民や EU 在住の個人に関わる情報を取り扱う外国の組織にも適用され、「忘れられる権利」や「データポータビリティの権利」など、日本の個人情報保護法に含まれない規定も多くあるため、ヨーロッパに関する個人情報を多く含む当アーカイブズのアーカイブでは、とくに注意をしておく必要がある。その他の詳細は、本学院の「個人情報の保護に関する規程」（2003 年 4 月 1 日制定）に準拠して対応する旨、「所蔵文書利用等規程」にも記載してある。

公開の可否、方式を判断する基準については、デジタルアーカイブ学会法制度部会による「肖像権ガイドライン～自主的な公開判断の指針～」(同学会法制度部会、2021 年) のポイント制をローカライズして援用する。基本的なワークフローは、以下のとおりである。

a) 被写体の判別 → 知人が見れば誰なのか判別可能か？

・ No：公開に適する / Yes：適さない

b) 被写体の同意 → 被写体本人の同意は得ているか？

・ Yes：公開に適する / No：適さない

c) ポイント計算 → 公開で生じる被写体本人の精神的な影響をポイント計算

・ 0 点以上 : 公開に適する

・ -1 ～ -15 点 : 条件付き公開 → 公開箇所の限定 / マスキングで対応

・ -16 ～ -30 点 : 条件付き公開 → 厳重なアクセス管理 / マスキングで対応

・ -31 点以下 : 条件付き公開 → マスキングで対応

ポイント換算については、最高裁判所が権利の侵害の有無を判断する際の基準、6 要素をもとに計算、合計点を採る形式となっている。6 要素とは、①被撮影者の社会的地位（公人か私人かを測る）、②被撮影者の活動内容（活動の種類・被撮影者の立場から、公的か私的かを測る）、③撮影の場所（公共の場所か私的空間かを測る）、④撮影の態様（写り方・撮影状況・被写体の状況から、個人の特定や姿態の公的／私的を測る）、⑤写真の出典（すでに公開されているか、希少性などを測る）、⑥撮影の時期（50 年に至る経過年数から測る）で、例えば①では、公人（政治家など）を +20、著名人（芸能人、スポーツ選手など）を +10、16 歳未満の一般人（保護者の同意が推定できるなら減点しない）を -20、有罪確定者を +5、元被疑者で逮捕・摘発の報道

から10年経過を-10、被疑者・刑事被告人の家族を-10、事件の被害者とその家族を-5として合算している（1枚の写真に複数の人物が写っている場合、各人物ごとにポイントを計算し、最もポイントの低い人物を基準に判断する）。ただし、同ガイドラインを策定したデジタルアーカイブ学会も指摘しているとおり、各アーカイブズではその収載する記録の性格に準拠した、特定の要素が必要であろう。当アーカイブズにおいては、宗教や教団の関わる問題、戦前・戦中の政治的問題などが該当しようが、それらはむしろ明確に基準化できず、その都度事務局内で検討する方が適切と思われる。なお、「所蔵文書利用等規程」15条には、情報公開に関するオプトアウトの方法を定めており、今後はデジタル・データベース内にも明記をしておく必要があるかもしれない。

以上が現行の方式の概要だが、①著作権・②肖像権の処理を一貫させ、当アーカイブズの記録類に準拠したポイント要素および規程を整備、全体を内規化し、かかる問題に深い知識のない職員でも運用可能にすることが、喫緊の課題となっている。

本規程の策定に際して使用した文献は以下のとおりである。

- ・総務省 2012『デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン』同省
- ・島根大学附属図書館 2016「島根大学附属図書館デジタルアーカイブ運用要項」同館（最終改正 2021 年）
- ・福井健策・小林利明 2017「デジタルアーカイブ利活用と著作権等」『AD STUDIES』60
- ・坂口貴弘 2019「アーカイブズにおける秘密情報保護と資料公開：欧州のデータ保護制度を手がかりに」『創価教育』12
- ・福井健策監修・数藤雅彦編 2019『権利処理と法の実務（デジタルアーカイブ・ベーシックス 1）』勉強出版
- （序章）生貝直人「デジタルアーカイブの構築に関わる法制度の概観」
- （2章）数藤雅彦・橋本阿友子「保護期間満了（パブリックドメイン）の判断基準」
- （4章）長坂俊成「自治体が運営する災害デジタルアーカイブ：肖像・プライバシー等を巡る現状と課題」
- ・県立長野図書館 2021「信州デジタルコモンズ運用規程」同館
- ・根本彰 2021『アーカイブズの思想：言葉を知に変える仕組み』みすず書房
- ・デジタル・アーカイブ学会法制度部会 2021「肖像権ガイドライン～自主的な公開判断の指針～」同学会

■ 3 ソフィア・アーカイブズ運営委員会

3-1 ソフィア・アーカイブズ運営委員会の活動

◇第1回 2020年9月28日開催

議題：（1）ソフィア・アーカイブズ所蔵文書利用等規程について
（2）デジタルアーカイブへのコンテンツ追加について
（3）2021年度予算について

報告：（1）オンライン企画展の開催について
（2）ソフィア・アーカイブズの公式ホームページについて

◇第2回 2021年3月17日開催

議題：（1）2021年度企画展（予定）について
（2）ソフィア・アーカイブズブックレットの企画について
（3）展示スペースの名称について

(4) 6号館展示ワーキンググループメンバーについて

(5) 中・高各校におけるアーカイブズの将来計画について

報告：(1) ソフィア・アーカイブズ所蔵文書利用等規程について

(2) 広島学院中学校・高等学校および六甲学院中学校・高等学校への訪問について

◇第3回 2021年10月19日開催

議題：(1) 2022年度予算について

(2) 企画展について

報告：(1) 史資料収集のご協力について

(2) 学芸員課程の実習生受け入れについて

(3) ブックレットについて

(4) ソフィア・アーカイブズデータベースの進捗状況について

(5) 所蔵文書等規程について

(6) 設置校ワーキンググループについて

(7) 文学部初年次研修会への参加について

(8) 基盤教育センターとの連携について

(9) 真田堀試掘調査の記録について

(10) キャンパス整備との連携について

(11) アーカイブズのblog、Twitterについて

(12) 100周年記念関係事業の資料移管について

◇臨時 2022年1月18日開催

議題：(1) 「ソフィア・アーカイブズ データベース」における史資料の公開基準について

(2) ソフィア・アーカイブズデータベースについて

◇第4回 2022年3月15日開催

審議：(1) ブックレットの次期企画について

(2) 2022年度の委員会メンバーについて

報告：(1) ブックレット2の発行について

(2) 新企画展について（アメリカ・カナダ研究所主催）

(3) ソフィア・アーカイブズデータベース公開について

(4) ホームページのアーカイブズ化について

(5) 2022年度の予算示達について

(6) その他

◇第5回 2022年7月6日開催

審議：(1) 2022年度運営委員会メンバーの選出について

報告：(1) 2021年度活動報告、2022年度活動計画について

(2) 2021年度予算執行状況、2022年度予算示達内容について

(3) 2022年度企画展示について

- (4) 創立記念行事企画について
- (5) データベースについて
- (6) ブックレット 3 の進捗について
- (7) 社会福祉専門学校（閉校）からの資料移管について
- (8) その他

◇第 6 回 2022 年 10 月 20 日開催

審議：(1) 2023 年度予算について

- (2) 映像・音声資料等のデジタル化及び公開の優先順位について

報告：(1) 委員の任期延長について

- (2) 設置 4 校ワーキングミーティング実施報告
- (3) 大学ホームページ更新に関する作業について
- (4) ブックレット 3 の進捗について
- (5) 企画展の開催について
- (6) ソフィア・アーカイブズデータベース公開作業の進捗について
- (7) 教育連携・社会貢献について
- (8) 調査短報

◇第 7 回 2023 年 6 月 16 日開催

審議：(1) デジタルアーカイブ公開規程について（意見徴収）

- (2) ブックレット 4 について及び今後のブックレットについて

報告：(1) 決算

- (2) 中長期計画と 2023 年度事業計画
- (3) 委員の交代について（中高）
- (4) デジタル化紹介
- (5) 中高 4 校に向けての研修動画について
- (6) ARSI 資料調査について
- (7) 展示について
- (8) 教育サポート、研修関係

◇第 8 回 2023 年 10 月 30 日開催

審議：(1) ブックレット 4 内の上智大学創設当時の学生の個人情報の取り扱いについて

- (2) 2024 年度予算申請について

報告：(1) ワーキンググループ設置について

- (2) 展示について
- (3) 教育サポート
- (4) アーカイブズ内常設展示について

◇第 9 回 2024 年 4 月 25 日開催

審議：(1) ソフィア・アーカイブズ年間活動報告書について

- (2) 2023 年度決算について
- (3) 2024 年度の活動方針について
- (4) 展示について（体制及び 2024 年度の企画について）
- (5) ブックレットについて（2024 年度の企画および 2025 年度に向けて）

報告：(1) アーカイブズ内の展示リニューアルについて
 (2) オール・ソフィアーズデイへの参加について

◇第 10 回 2024 年 11 月 21 日開催

審議：(1) 2025 年度の企画展示の選定について
 (2) 2025 年度アーカイブズ予算申請について

報告：(1) 6 号館 1 階マルチマップテーブル機器・プログラム変更について
 (2) アーカイブズ活動報告（4 月～ 10 月）

3-2 運営委員一覧（巻末資料 1）

■ 4 各種ワーキンググループ

4-1 6 号館 1 階展示物ワーキンググループ

6 号館の共同利用を開始した 2017 年 4 月以降、1 階展示スペースを運用する部署が定まっていなかったため、2018 年 2 月に展示スペースの活用、展示企画案についてアイデアを出す目的で、アガスティン・サリ総務担当理事（当時）の発案で 6 号館 1 階展示物ワーキンググループが設置された。ソフィア・アーカイブズが組織される以前の第 1 回から第 6 回についても参考までに掲載する。

なお、2020 年 4 月に上智大学史資料室がソフィア・アーカイブズに改組されて以降、予算がアーカイブズ管理になったため、ソフィア・アーカイブズ運営委員会の下部組織として新たなワーキンググループ設置を計画することから、本ワーキンググループは解散した。（2023 年 10 月 31 日開催 第 8 回ソフィア・アーカイブズ運営委員会にて報告）

4-1-1 活動

◇第 1 回 2018 年 2 月 19 日開催

審議：(1) 今後の企画展について、施設・設備面、展示目的、期間、テーマ、情報収集方法、什器等についての意見交換

◇第 2 回 2018 年 7 月 9 日開催

審議：(1) 企画展のテーマについて
 (2) その他

報告：(1) 施設・設備（セキュリティ）について

◇第 3 回 2018 年 11 月 27 日開催

審議：(1) 展示スペース 2 の企画展「キリシタンの世紀」について
 (2) 展示スペース 2 の次期企画展について
 (3) 展示スペース 3 の活用について

(4) 企画展の公募について

(5) その他

報告：(1) ワーキンググループ新メンバーについて

◇第4回 2019年2月28日開催

審議：(1) 展示スペース2の次期企画展「イコンに見る聖書の世界」について

(2) 展示スペース2および3の次期企画展について

(3) その他

報告：(1) 企画展「キリシタンの世紀」講演会実施報告

◇第5回 2019年7月23日開催

審議：(1) 「ローマ教皇来日記念」写真展について

(2) 2019年度後半～2020年度の企画展について

(3) その他

報告：(1) ワーキンググループメンバーについて

(2) 企画展「イコンに見る復活」講演会について

(3) 展示スペース2の企画展「上南戦第60回記念大会－スポーツを通じた交流の歴史－」について

(4) 展示スペース3の企画展「ロシアの風景」について

(5) 展示スペース2の次期企画展「国際部設立70周年」について

◇第6回 2020年1月23日開催

審議：(1) 展示スペース2の次期企画展「教皇フランシスコの来校（仮題）」について

(2) 2020年度の企画展について

(3) 6号館1階展示スペースのホームページについて

(4) その他

報告：(1) 展示スペース2の企画展「国際部創立70周年」について

(2) 教皇フランシスコ来校記念展示について

◇第7回 2020年10月30日開催

議題：(1) 2021年度の企画展について（継続審議）

(2) 展示企画の募集について（継続審議）

(3) 展示スペースの名称について（継続審議）

報告：(1) ワーキンググループメンバーについて

(2) ソフィア・アーカイブズのホームページについて

(3) 展示スペース2の企画展「教皇フランシスコ、来校ありがとう」について

(4) 第1回Web展示「受け継がれるメッセージー緒方貞子先生から将来を担う若者へー」について

◇第8回 2021年2月25日開催

議題：(1) 2021年度の企画展について（継続審議）

(2) 学芸員課程／展示ワーキング／ソフィア・アーカイブズの協働について

(3) 展示スペースの名称及びその情宣方法について（継続審議）

(4) その他

報告：(1) 第2回オンライン企画展「受け継がれるメッセージー教皇フランシスコ来校1周年を記念してー」について

(2) 2020年度（第1回）上智学院教皇フランシスコ来学記念表彰への申請について

(3) 展示企画の募集結果について

(4) その他

◇第9回 2022年4月26日開催

議題：(1) 2022年度の企画展について

(2) 展示企画の募集について

(3) その他

報告：(1) ワーキンググループメンバーについて

(2) アメリカ・カナダ研究所企画展「千代田区の歴史発掘ー占領下のアメリカ文化ー」について

◇第10回 2022年6月29日開催

審議：(1) 2022年度の企画展について

報告：(1) 展示企画の募集結果について

(2) その他

◇第11回 2023年5月2日開催

審議：(1) 2023年度の企画展について

報告：(1) 今後のワーキングの位置づけについて

(2) 6号館1階展示スペースの一部業務移管について

◇メール審議 2023年5月12日～5月17日開催

審議：(1) 2023年度の企画展について（追加）

4-1-2 メンバー一覧（巻末資料2）

4-2 設置中高アーカイブズ・ワーキンググループ

4-2-1 活動

◇第1回 2022年9月22日開催

報告：(1) 設置中高アーカイブズ・ワーキンググループメンバー紹介

(2) 中高各校のアーカイブズ状況の報告

(3) 意見交換

◇2023年度 研修動画公開・提供

4-2-2 メンバー一覧（巻末資料3）

Ⅱ 活動編

■ 1 史資料の収集、整理および保存

1-1 史資料受領（収集）状況

2020年4月7日～5月25日までCOVID-19の感染拡大による緊急事態宣言が発出され、4月7日以降教職員の勤務について原則として在宅勤務による事業継続が推奨された。そのため2020年度は史資料受領件数が激減している。2021年11月から学内全部署、学部・学科、研究科・専攻、研究機構宛に資料収集用専用往復封筒を配布し、資料収集を開始した。そのため、2021年11月から学内からの受領件数が増加している。

	小計		合計件数
	学内計	学外計	
2020年度	69	73	142
2021年度	948	199	1,147
2022年度	1,004	145	1,149
2023年度	836	102	938
2024年度	871	118	989

1-2 史資料整理状況

1-2-1 史資料整理（目録登録、デジタル化など）

	目録登録点数 （新規）	目録登録点数 （遡及） ※業務委託含む	映像・音声メタ データ入力点数 （文字おこし含む）	ネガ・写真整理点数	デジタル化点数
2020年度	142	1,225	0	0	19
2021年度	1,147	3,150	56	3,008	542
2022年度	1,149	3,079	86	12,039	5,128
2023年度	938	8,631	108	21,512	101
2024年度	989	2,279	39	28,367	599

1-2-2 史資料整理（各種新聞見出し目録登録） ※ 2021 年度から開始

	『上智大学通信』	『上智新聞』	『上智大学新聞』	『上智短期大学新聞』	"Sophia Gazette"	『カトリック新聞』
2020年度	-	-	-	-	-	-
2021年度	301号～328号、 384号～392号、 401号～451号、 456号～458号	1号～320号	1号～171号	-	1号～196号	-
2022年度	329号～384号、 460号～465号	320号～575号	172号～249号 完了	-	150号～196号	-
2023年度	466号～475号	576号～599号	-	1号～99号	-	1号～521号
2024年度	476号～482号 完了	600号～604号	-	100号～101号	-	534号～636号、 1728号～ 2230号

■ 2 調査・研究およびその成果の公開

2-1 「Sophia Chronicle since 1913」の開始

2022 年 12 月の公式大学ホームページのリニューアルに伴い、それまで掲載していた「Web で知る "Sophia"」をリライトして「Sophia Chronicle since 1913」に後継。

- ・ 2022 年 12 月 19 日掲載 「創立 110 年 初代学長ヘルマン・ホフマンの変わらぬ想い」
- ・ 2022 年 12 月 19 日掲載 「ザビエル・ウィークで建学の精神を想う」
- ・ 2022 年 12 月 19 日掲載 「上南戦は文武両道の歴史なのか？」
- ・ 2023 年 3 月 6 日掲載 「55 年以上も前からキャンパス内にテレビスタジオが！？」
- ・ 2023 年 4 月 19 日掲載 「上智大学のルーツ ～ザビエルの夢と志とともに～」
- ・ 2023 年 5 月 19 日掲載 「思い出の新入生歓迎行事『オリエンテーション・キャンプ』
- ・ 2023 年 6 月 23 日掲載 「卒業生大集合！オールソフィアンの集い」
- ・ 2023 年 7 月 28 日掲載 「戦後の大学再建の鍵となったイエズス会の神父たち」
- ・ 2023 年 9 月 29 日掲載 「インドシナ難民に愛の手を – For Others, With Others –」
- ・ 2024 年 3 月 14 日掲載 「上智大学生が植えた土手の桜」
- ・ 2024 年 5 月 7 日掲載 「Monumenta Nipponica を知っていますか？」
- ・ 2024 年 6 月 28 日掲載 「上智 - Sapientia - ΣΟΦΙΑ - Sophia」
- ・ 2024 年 9 月 27 日掲載 「日本文化を肌で体感ーサマーセッション・プログラムー」
- ・ 2024 年 12 月 13 日掲載 「先人たちの努力を想う」
- ・ 2025 年 3 月 5 日掲載 「上智のランチ事情」

2-2 設置校に関する調査

2-2-1 栄光学園中学高等学校

訪問日：2022 年 9 月 20 日

訪問者：館長、事務長、事務職員 2 名（合計 4 名）

内容：史資料保存室見学、資料保存状態確認、校内見学、意見交換

2-2-2 六甲学院中学校・高等学校

訪問日：2021 年 3 月 9 日

訪問者：館長、事務長、事務職員（合計 3 名）

内容：ソフィア・アーカイブズ規程の説明、史資料保存室見学、資料保存状態確認、意見交換

2-2-3 広島学院中学校・高等学校

訪問日：2021 年 3 月 5 日

訪問者：事務長、事務職員（合計 2 名）

内容：ソフィア・アーカイブズ規程の説明、史資料保存室見学、資料保存状態確認、意見交換

訪問日：2022 年 4 月 5 日

訪問者：李聖一（イエズス会中等教育担当理事）、事務長、事務職員（合計 3 名）

内容：ソフィア・アーカイブズ規程の説明、運営委員会およびワーキンググループメンバー協力依頼、意見交換

2-2-4 上智福岡中学高等学校

訪問日：2022 年 4 月 4 日

訪問者：李聖一（イエズス会中等教育担当理事）、事務長、事務職員（合計 3 名）

内容：ソフィア・アーカイブズ規程の説明、運営委員会およびワーキンググループメンバー協力依頼、意見交換

■ 3 展示等の活動

3-1 6 号館 1 階企画展示実績（巻末資料 4～6）

6 号館 1 階展示物ワーキングを設置した 2018 年 2 月以降に 6 号館 1 階にて開催した企画展を対象とする。

3-1-1 2018 年度

3-1-1-1 「キリシタンの世紀」

主催：キリシタン文庫

場所：6 号館 1 階展示スペース 2

会期：2018 年 10 月 19 日～2019 年 3 月 8 日

3-1-1-2 「アイコンに見る聖書の世界ーキリストの受難と復活ー 鞠安日出子の祈り」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6 号館 1 階展示スペース 2 および 2 号館 1 階カトリック・イエズス会センター入口横

会期：2019 年 3 月 12 日～6 月 20 日

3-1-2 2019 年度

3-1-2-1 「上南戦第 60 回記念大会ースポーツを通じた交流の歴史ー」

主催：上智大学、協力：南山学園南山アーカイブズ

場所：6 号館 1 階展示スペース 2

会期：2019 年 6 月 24 日～9 月 18 日

3-1-2-2 「ロシアの風景」

主催：外国語学部ロシア語学科

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2019年7月16日～11月22日

3-1-2-3 「国際部創設 70 周年」

共催：国際教養学部・上智大学史資料室

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：2019年9月20日～2020年3月16日

3-1-2-4 教皇フランシスコ来訪記念写真展「ローマ教皇と上智大学」

主催：上智大学

場所：2号館 1階エントランス

会期：2019年11月14日～12月20日

3-1-2-5 ローマ教皇来日記念写真展 ジョー・オダネル写真展「戦争がもたらすもの」

主催：上智大学、NPO 法人アース・アイデンティティ・プロジェクト、後援：TBS テレビ、協力：TBS スパークル／Kimiko O' Donnell／大原哲夫編集室／山崎真

場所：6号館 1階エントランス（麹町大通り側）

会期：2019年11月15日～11月29日

3-1-2-6 「ローマ教皇と上智大学」

主催：上智大学

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2019年11月25日～2021年8月8日

3-1-2-7 「教皇フランシスコ 来校ありがとう」

主催：上智大学

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：2020年3月17日～2021年10月6日

3-1-3 2020 年度

COVID-19 の感染拡大につき、企画展示入れ替えを一時中断。代わりにオンライン企画展を開始。
(3-3 オンライン企画展実績参照)

3-1-4 2021 年度

3-1-4-1 「聖イグナチオ年」※同じ内容のパネルを中高 4 校巡回展示用にも制作

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：2号館 1階カトリック・イエズス会センター壁面

会期：2021年6月18日～（常設）

3-1-4-2 「新カトリック大事『展』」

主催：新カトリック大事典編纂室

場所：6号館 1階展示スペース 3 および図書館 1 階

会期：(6号館 1 階) 2021 年 8 月 9 日～2022 年 3 月 21 日、(図書館)2021 年 8 月 9 日～10 月 22 日

3-1-4-3 「聖イグナチオの霊的な遺産」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：2021年10月7日～2022年12月12日

3-1-4-4 「千代田区の歴史発掘 ―占領下のアメリカ文化―」

主催：アメリカ・カナダ研究所

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2022年3月23日～12月11日

3-1-5 2022年度

3-1-5-1 「上智大学新聞学科と日本の新聞学」

主催：文学部新聞学科

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：2022年12月14日～2023年5月30日

3-1-5-2 「フランスにおける『服』と『政治』」

主催：外国語学部フランス語学科（サルブラン先生のゼミ）

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2022年12月14日～2023年10月11日

3-1-6 2023年度

3-1-6-1 「NAGASAKI から世界へ『平和を』 被爆医師 永井隆と妻緑からのメッセージ」

※長崎市永井隆記念館から展示パネル借用

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：第1期 2023年6月1日～7月27日、第2期 2023年8月1日～10月12日

3-1-6-2 「上智の『鷲』とともに ―大学の理想と『校章』―」

主催：ソフィア・アーカイブズ

場所：6号館 1階展示スペース 2 および図書館 1階

会期：(6号館 1階) 2023年10月13日～2024年9月17日、(図書館)2024年3月25日～5月30日

3-1-6-3 「他者のために、他者とともに 上智大学短期大学部サービスラーニングの挑戦」

主催：上智大学短期大学部

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2023年10月13日～2024年1月19日

3-1-6-4 「人間 アルペ神父に問う Men for Others 展」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2024年1月22日～10月8日

3-1-7 2024 年度

3-1-7-1 「鞠安日出子アイコン・日本画展－生きるカー」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6 号館 1 階展示スペース 2

会期：2024 年 9 月 25 日～ 10 月 18 日

3-1-7-2 「カンボジアでのソフィア・ミッション（1979 年～ 2023 年）難民救済活動からアンコール・ワット西参道完成まで」

主催：アジア人材養成研究センター

場所：6 号館 1 階展示スペース 2、3

会期：2024 年 10 月 22 日～ 2025 年 4 月 30 日

3-2 グローバルインターフェース、マルチマップテーブル

2017 年 6 号館竣工の際に、上智学院・上智大学に関連するコンテンツを発信するために新たに設置されたもの。

3-2-1 グローバルインターフェース（地球儀型ディスプレイ）

交換留学協定校、学術交流協定校、留学体験談情報を発信。協定校数などを年に一度更新。

※ 2023 年 4 月から総務局広報グループへ業務移管

3-2-1-1 2020 年度

2021 年 1 月コンテンツ更新

3-2-1-2 2021 年度

2022 年 3 月コンテンツ更新

3-2-1-3 2022 年度

2022 年 7 月コンテンツ更新

3-2-2 マルチマップテーブル（大型モニター）

歴代理事長・学長、キャンパスの変遷、建物の変遷を発信している。理事長や学長交代の際に内容を更新。その他新規コンテンツの追加はなし。モニターの故障により 2022 年にモニターを交換。その後 2024 年度末に、パソコン故障のため、入れ替えを行った。

3-2-2-1 2020 年度

更新なし

3-2-2-2 2021 年度

更新なし

3-2-2-3 2022 年度

更新なし、モニター交換（保証期間内による無償交換）

3-2-2-4 2023 年度

6 月更新（理事長交代による歴代理事長内容更新）

3-2-2-5 2024 年度

2 月 PC 入れ替えと同時に、更新（学長交代による学長内容更新）

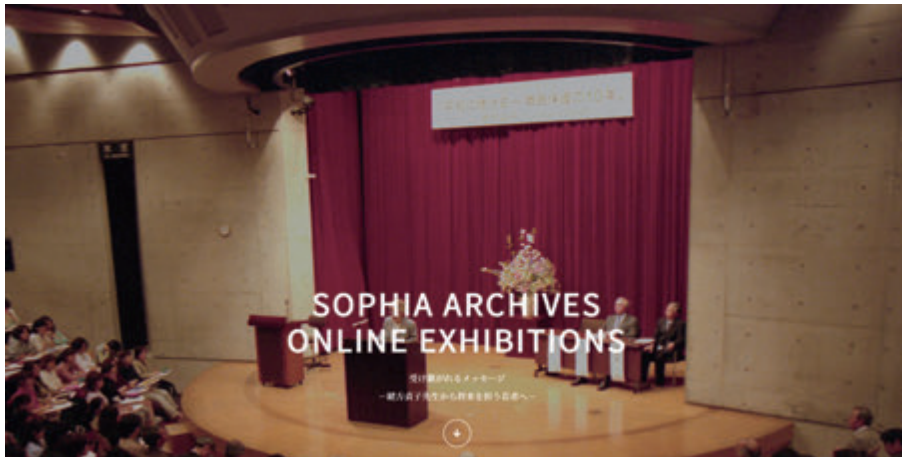
3-3 オンライン企画展

COVID-19の感染拡大により、6号館1階での企画展示を一時中断せざるを得ない状況となり、代わりにホームページ上でオンライン企画展をスタートさせた。終期を設けず公開中である。

3-3-1 第1回「受け継がれるメッセージー緒方貞子先生から将来を担う若者へ」

1990年に国連難民高等弁務官に就任されるまでの本学での10年間と、その後複数回、本学にて講演された記録（史資料や音声）など通じて緒方先生の揺るぎない信念とメッセージを公開。

公開日：2020年10月22日（～公開中）



3-3-2 第2回「受け継がれるメッセージー教皇フランシスコ来校1周年を記念してー」

教皇フランシスコが来日に合わせて2019年11月26日に本学に来校。日本で最初のカトリック大学である本学と歴任教皇との関係を紐解きながら、教皇フランシスコ来校時の様子やメッセージを公開。

公開日：2021年1月26日（～公開中）



教皇フランシスコが、本学に来校して1年が経ちました。この間、私たちはコロナ禍の最中ながら、新しい展開が求められています。

今回の展示では、歴任教皇と本学の関係を紐解きながら、教皇フランシスコが来校され、私たちに残したメッセージなどを紹介します。これらが、コロナ禍における新たな考えと繋がります。

なお、このオンライン企画展は、2号館エントランス写真廊（2019年11月14日～12月20日）および9号館1階企画展（2020年3月20日～開催）を再構成したものです。



3-3-3 第3回「学生寮100年」

1913年に本学創立した当初から赤星鉄馬（実業家）の旧邸を学生寮として使用。その学生寮に「聖アロイジオ塾」という名称を付けて100年が経ったのを機に企画。本学の学生寮の100年の歴史を紐解いている。

公開日：2021年9月3日（～公開中）



3-3-4 第4回「上智のイエズス会員と社会福祉専門学校のあゆみ」

2022年3月に上智社会福祉専門学校が幕を下ろしたのを記念して企画。「貧困」「難民」「教育」などの社会課題の解決に取り組む神父たちの挑戦と活動を紹介し、それを基盤とした社専の創設期の歩みを振り返るとともに存在していた意義を考える。

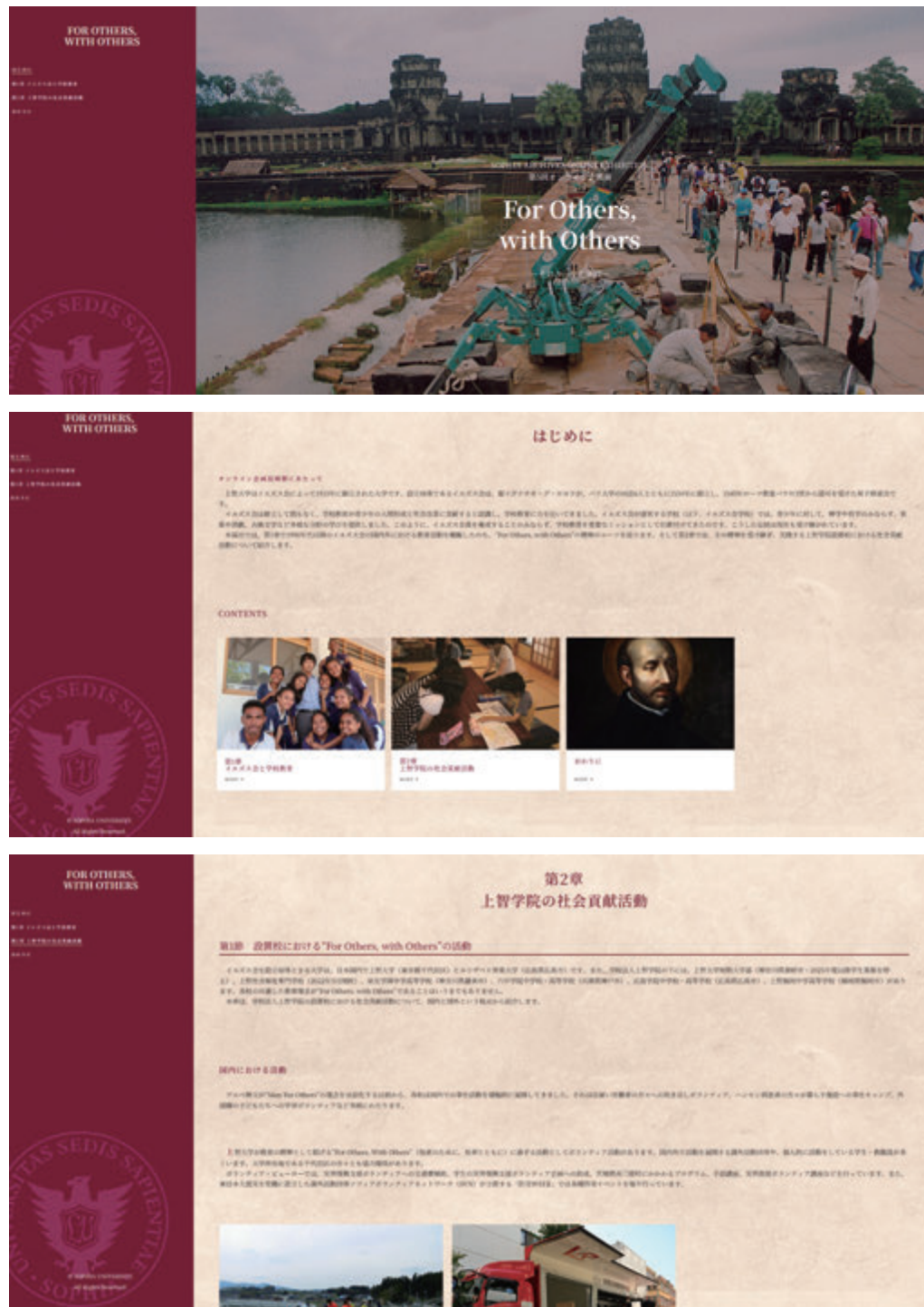
公開日：2022年8月30日（～公開中）



3-3-5 第5回「For Others, with Others –そのルーツと実践–」

本学の教育精神「他者のために、他者とともに」(For Others, with Others)のルーツを紐解き、本学および設置校(短期大学部、中高4校)に引き継がれているこの精神の具体的な活動を公開。

公開日: 2024年9月17日(～公開中)



3-4 常設展示（図書館 9 階ソフィア・アーカイブズ室内）

図書館ソフィア・アーカイブズ室内の常設展示は史資料室時代から展示替えを行っておらず、30 年あまり大幅な内容更新が行われてこなかった。そこで、改組に伴い、展示方法も含めて内容の見直しを行った。

3-4-1 2023 年度

特別予算を申請し、アーカイブズ室内の常設展示・特別展示の改修を計画、実施した。廊下壁面を展示スペースの一部とし年表を展示。展示方法も、磁石を活用しパネルの着脱を容易にした。展示の各エリアは以下の通り。

常設展示：

- ・年表：廊下には学校法人上智学院と社会福祉専門学校の年表を写真と共に展示。
- ・ローマ教皇と上智大学：ローマ教皇と本学の深いかかわりと来校した際のメッセージを中心に展示。
- ・イエズス会と教育事業：上智学院が設置する中学・高等学校および短期大学について紹介。
- ・キャンパスとその周辺の建物変遷：上智大学が地域の中で土地を取得し、建物を建築し、地域と共に成長してきた様子を航空写真と共に紹介。
- ・キャンパスライフの今昔：上智大学のキャンパスライフを学び、学生生活、イベントそして思わぬ出来事という側面から懐かしい写真と共に展示。
- ・歴代の理事長と学長：歴代の理事長と学長を紹介。

特別展示：

- ・国内外からの来訪者：大学創設後の歴史の中で世界各国から訪問いただいた賓客の方々を紹介。
- ・大学紛争：学生たちが大学内の自治を求め、活動していた時代を写真で紹介。

3-4-2 2024 年度

前年度に継続し、最初の校舎として使われていた大島館の模型、扉、手すりを展示。加えて、大学等で使用されていた備品（手動式計算機、顕微鏡、電話機など）の展示エリアを改修した。

また、事務スペースと展示スペースを分けるためにパーテーションを活用した。

3-5 学内のその他の場所での展示および他機関主催企画展への資料提供（2018 年以降）

- ・「上智大学の国際交流 - 自動車部とジョージタウン大学」（会期：2019 年 7 月 25 日～9 月 2 日、Sophia History Club（上智大学文学部史学科公認団体）、上智大学史資料室（当時）共催）
- ・ハリス理化学館同志社ギャラリー第 30 回企画展（同志社大学）「女子学生の現在地 - 同志社大学のダイバーシティ 前史」への資料提供協力（会期：2023 年 10 月 3 日～11 月 28 日）

■ 4 史資料の公開およびレファレンスサービス

4-1 ホームページの開設

2022 年 12 月に上智大学公式ホームページ（Web ピロティ）内にソフィア・アーカイブズのページを開設した。2023 年 4 月から 2024 年 3 月のアクセス数は 785PV（ページビュー）であった（Google analytics ソフトによる解析、クッキー設定をした場合のみカウント）。ホームページの目的はアーカイブズの存在を広く知ってもらうこと、史資料を公開することで利活用へと繋がり、社会還元をすることである。ホームページでは、企画展示の案内、ソフィア・アーカイブズブックレットおよび『上智大学史資料集』全 5 集および補遺の電子版の公開などを行っている。コンテンツ内容は次の通り。

- ・ソフィア・アーカイブズについて（館長あいさつ、構成員、活動内容、収蔵史資料、規程、史資料公開）
- ・ソフィア・アーカイブズデータベースについて

- ・ 利用案内
- ・ 展示案内
- ・ アーカイブズ SNS について（X（旧 Twitter）、ブログ）
- ・ 刊行物（ソフィア・アーカイブズブックレット）
- ・ Web で知る SOPHIA
- ・ 問い合わせ・アクセス

4-2 ソフィア・アーカイブズデータベースの開設

ソフィア・アーカイブズにて収集・保管している貴重な本学院の歴史資料や学術資料のうちデジタル化が済み、公開可能なもの（文書／画像／映像／音声など）について、詳細な目録情報（メタデータ）含め学内外へ広く公開し、利活用を促進することを目的に、2022年3月に開設した。閲覧数とダウンロード数は以下の通り。

閲覧数・ダウンロード数

	閲覧数	ダウンロード数
2021年度	875	0
2022年度	7,086	0
2023年度	9,092	0
2024年度	11,312	0

※閲覧数はビューアー画面で閲覧したアイテム数(のべ件数)

4-3 レファレンスサービス

法人事務文書・特定歴史文書について、利用請求があった際に、利用者の目的に応じたサービス（閲覧・調査）を提供している。月別史資料閲覧・調査・史資料出納件数は以下の通り。

史資料閲覧・調査申請者数（複写対応含む）・史資料出納点数

	閲覧・調査 申請者数	史資料 出納点数
2020年度	55	200
2021年度	68	983
2022年度	75	911
2023年度	92	1,999
2024年度	107	1,284

※出納点数はファイル式などの提供はカウントから除く

4-4 見学

アーカイブズ内展示スペース（自由見学）の見学者数は以下の通り。2020～2021年度はCOVID-19の感染拡大の影響で閉室期間があったため見学者数は少ない。

見学者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
2020年度	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2021年度	0	1	3	9	7	9	9	9	11	13	4	6	81
2022年度	28	19	25	13	23	4	5	12	14	33	6	15	197
2023年度	8	20	18	3	2	8	7	14	6	26	2	2	116
2024年度	78	91	26	7	1	10	54	113	21	19	3	6	429

※見学者数にはイベント開催時は含まない

■ 5 年史等の編纂その他出版に関する事項

5-1 ソフィア・アーカイブズブックレット

2020年4月に創刊した叢書（非売品）。(1) 上智学院および設置校の歴史、(2) イエズス会員を含む関係者の事績に関わること、(3) ソフィア・アーカイブズズの活動内に関する事等を日英併記で明らかにすることによって、教育・研究に寄与し、社会の未来に貢献することを目的としている。刊行後はリポジトリにて電子版を公開している。

5-1-1 ブックレット No.1

『ジェームズ・ロックリフ その軌跡を辿って／James Rockliff, S.J. Along the Journey』（デヴィッド・ウェッセルズ SJ 著 峯健一訳 2020年5月24日刊 150部）

5-1-2 ブックレット No.2

『イエズス会の日本での布教活動と1929年のアウグスティノ・ベア師による巡察／The Jesuit Japan Mission and the 1929 Visitation by Augustin Bea SJ』（フランツ・ヨゼフ・モール SJ 著 ミヒャエル・ブルチャー訳（英語訳）、田中アユ子訳（日本語／英語からの重訳、2022年2月15日刊 150部）

5-1-3 ブックレット No.3

『上智大学の設立／The Founding of Sophia University』（クラウス・シャッツ SJ 著 田中アユ子訳 ケイト・ワイルドマン・ナカイ監修、2022年10月25日刊、150部）

5-1-4 ブックレット No.4

『イエズス会士たちの東京での日々：1911 - 1917 ～フリッツ・ヒリヒ師のアルバムから～／Tokyo Life, 1911 - 1917 Pages from the Albums of Fritz Hillig SJ』（ケイト・ワイルドマン・ナカイ著 田中アユ子訳 2024年3月1日刊、150部）

■ 6 本学院および設置校の自校史教育に関する事項

6-1 学芸員課程との連携

COVID-19の感染拡大により、2021年度は博物館相当施設にて博物館実習生の受け入れが困難な状況となったことから、救済措置としてソフィア・アーカイブズでの博物館実習生受け入れ協力要請が学芸員課程の西岡芳文教授からあり、2021年度から博物館実習生の受け入れ協力を実施している。また学芸員課程の授業の一環として、同年度から学芸員課程履修生によるソフィア・アーカイブズ見学へも協力している。

6-1-1 博物館実習受け入れ

6-1-1-1 2021 年度

期間：10月21日～12月23日（1人約40時間）

学芸員課程担当教員：西岡芳文

受入人数：4人

作業内容：未整理資料群のうち「絵葉書」の整理（仮番号付番、撮影、採寸、詳細目録入力）および展示企画立案

企画展開催：「絵葉書で巡る上智大学の変遷 ～上智大学博物館実習生による企画展～」

会期：2022年1月20日～2023年1月20日

6-1-1-2 2022 年度

期間：9月29日～2023年1月25日（1人約40時間）

学芸員課程担当教員：西岡芳文

受入人数：5人

作業内容：広報課移管写真整理（付番、FC写真用台紙への添付、関連事項記入・入力）、大学紛争写真整理・照合、企画展示立案

企画展開催：「キャンパス来学要人から知る上智大学～上智大学博物館課程実習生による企画展～」

会期：2023年1月31日～2023年9月10日

6-1-1-3 2023 年度

期間：9月11日～9月15日（1人約35時間）

学芸員課程担当教員：西岡芳文

受入人数：4人

作業内容：未整理資料群のうち主に大学が記念品として制作したモノ資料整理（仮番号付番、撮影、採寸、詳細目録入力）および展示企画立案

企画展開催：「特別な校章たち」

会期：（ソフィア・アーカイブズ内）2023年9月15日～2025年3月17日

※上記会期中、2024年3月25日から2024年5月30日までは図書館1階にて展示

6-1-1-4 2024 年度

期間：9月17日～9月20日および9月26日（1人約32時間）

学芸員課程担当教員：西岡芳文

受入人数：6人

作業内容：企画展示撤収作業、寄贈資料のネガの整理（画像スキャン、詳細目録作成）およびソフィア・アーカイブズ展示エリア紹介リーフレット作成

作成リーフレット：「上智を再発見するならソフィア・アーカイブズから」「Hermann Hoffmann 初代学長ホフマン先生を”智”る上智」

※リーフレットは印刷物を作成して展示エリアなどで配布

6-1-2 学芸員課程授業

6-1-2-1 2021 年度

実施日：11 月 18 日 4 限目

人数：37 人（引率者 1 人）

内容：館長、副館長講話、アーカイブズ内見学

6-1-2-2 2022 年度

実施日：11 月 17 日 4 限目

人数：40 人（引率者 2 人）

内容：館長、副館長講話、資料クリーニングおよび各種資料見学、博物館実習生による説明、アーカイブズ内見学

6-1-2-3 2023 年度

実施日：11 月 16 日 4 限目

人数：45 人（引率者 4 人）

内容：館長、副館長講話、資料クリーニングおよび各種資料見学、博物館実習生による説明、アーカイブズ内見学

6-1-2-4 2024 年度

実施日：11 月 14 日 4 限目

人数：43 人（引率者 4 人）

内容：館長、副館長講話、資料クリーニングおよび各種資料見学、博物館実習生による説明、アーカイブズ内見学

■ 7 その他の活動

7-1 各種研修

- ・ 学生局職員向け研修（2022 年度）
- ・ 新入職員研修（2022 ～ 2024 年度）
- ・ 学生記者クラブ向け研修（2023 年度、2024 年度）

7-2 授業への協力

- ・ 文学研究科史学専攻近世特研（2021 ～ 2024 年度）
- ・ 文学部初年次研修会（2021 年度、2022 年度）
- ・ 文学部新聞学科デジタルアーカイブ論（2022 年度）
- ・ 外国語学部英語学科（石井ゼミ）（2022 ～ 2024 年度）
- ・ 外国語学部英語学科（Introduction to Digital Archives）（2024 年度）
- ・ 基盤教育科目（思考と表現）（2024 年度）

7-3 学外教育機関への協力

- ・ 東京都立小石川中等教育学校職場体験（2022 年度～ 2024 年度）
- ・ 桜美林学園史編さん室（2022 年度）
- ・ 青山学院大学授業の一環（2023 年度）
- ・ 学習院アーカイブズ（2023 年度）

7-4 その他（巻末資料 7）

- ・ 創立記念プログラムへの参加（2022 年 11 月 1 日「『過去』と『未来』をつなぐ -アーキビストを体験しよう」
- ・ 創立記念プログラムへの協力（2023 年 11 月 1 日「上智大学創立 110 周年 大学創立と戦前期の歴史を振り返る」
- ・ クリスマスコンサート（学生有志主催、展示物（ベーゼンドルファー社のピアノ）の活用と公開、2023 年 12 月 24 日）
- ・ オールソフィアンスディ（ASF）への参加（学内ツアーの見学先として開放）（2024 年 5 月 26 日 約 60 人来室）
- ・ オープンキャンパスへの参加（2024 年 8 月 2 日、3 日「上智を知るならここからスタート」と題して 2 日間開放、述べ約 1000 人来室）

■ 8 構成員

8-1 2020 年度

館長 北條勝貴（文学部史学科教授）
副館長 木村増夫（上智学院理事長補佐）
事務長 大日方聖信（総務局広報グループ長兼務）
チームリーダー（2020 年 7 月～） 大塚幸江
臨時職員：1 人（一般）

8-2 2021 年度

館長 北條勝貴（文学部史学科教授）
副館長 木村増夫（上智学院理事長補佐）
事務長 大日方聖信（総務局広報グループ長兼務）※～ 2021 年 6 月 30 日
事務長 飯塚由美子（総務局広報グループ長兼務）※ 2021 年 7 月 1 日～
チームリーダー 大塚幸江
小出幹彦 ※ 2021 年 7 月 1 日～
臨時職員：11 人 ※短期含む（一般 4 人、本学大学院生 3 人、本学学部生 2 人、他大学部生 2 人）

8-3 2022 年度

館長 北條勝貴（文学部史学科教授）
副館長 木村増夫（上智学院理事長補佐）
事務長 飯塚由美子（総務局広報グループ長兼務）※～ 2022 年 7 月 1 日

事務長（図書館主幹兼務） 後藤暁子（学芸員および司書有資格者）※ 2022 年 7 月 1 日～
チームリーダー 大塚幸江
小出幹彦（～ 2023 年 3 月）
臨時職員：8 人 ※短期含む（一般 4 人、本学大学院生 2 人、他大学部生 2 人）

8-4 2023 年度

館長 北條勝貴（文学部史学科教授）
副館長 木村増夫（上智学院理事）
事務長（図書館主幹兼務） 後藤暁子（学芸員および司書有資格者）
チームリーダー 大塚幸江
臨時職員：7 人 ※短期含む（一般 2 人、本学大学院生 4 人、他大学部生 1 人）
個人業務委託契約：1 人

8-5 2024 年度

館長 北條勝貴（文学部史学科教授）
副館長 木村増夫（上智学院理事）
事務長 後藤暁子（学芸員および司書有資格者）
チームリーダー 大塚幸江（准認証アーキビスト／準デジタルアーキビスト有資格者）
嘱託職員 崎山みき（2024 年 10 月 1 日採用、学芸員有資格者）
臨時職員：5 人 ※短期含む（一般 1 人、本学大学院生 3 人、他大学部生 1 人）
個人業務委託契約：1 人

■ 9 今後の課題

① 機構の拡充：人員の増設とくに認証アーキビストの配置

2024 年度現在、アーカイブズには館長・副館長・事務長のほか、2 名の職員が在籍しているが、アーカイブズの実質的活動は事務長以下の職員 3 名（嘱託職員 1 名含む）、数名のアルバイト、および外部アーキビストへの業務委託によって担われている。現状では通常の活動にも限界があるほか、とくに専任のアーキビストが存在しないことは、当アーカイブズが実質的に「研究機関」ではないことを意味しており、ソフィア・アーカイブズ規程に定義されている活動のうち「調査」「研究」に、支障が生じていることはいうまでもない。今後、可能であれば認証アーキビストの所属を得て、名実ともにアーカイブズとしての体裁を整え、規程どおりのポテンシャルを発揮しうるようにしてゆきたい。

② 施設の拡充：所蔵スペースの確保、展示室の拡大

旧史資料室からアーカイブズへ拡充されたことで、当アーカイブズの活動のうち最も拡大したのが、a) 史資料の収集・移管・保管と、b) 各種展示の開催である。

前者については、そのまま保管資料の充実を意味するが、現在本学院の文書等管理規程も検証中であり、閉校した社会福祉専門学校、学生募集を停止した短期大学部の史資料など、今後量的に増加の一途を辿ることは間違いない。しかし、保管スペースは中央図書館 9 階の旧史資料室内に限られており、もはや「余白」も少ない。早急に新たな保管スペースを準備、設置する必要がある。

後者については、現在当アーカイブズは 6 号館 1 階の展示スペースを統括、必要に応じて 2 号館 1 階およ

び中央図書館 1 階の展示スペースの事務局を務めているが、これらの利用は学院全体の企画のために割かれており、当アーカイブズが自由に使用できるのは、やはり旧史資料室内の一隅しかない。2023 年度には、同所における常設展示のリニューアルが実現したが、外部からの訪問者を迎える際やオープン・キャンパス等の大学行事、新入生や新任教職員の研修において、同所が学院の表玄関のように機能することが多くなっている。学院・大学・各設置校の歴史を、より広く学内・一般へアピールするためにも、常設に加え相当規模の展示スペースの拡充が望まれる。

③ 規程の整備：個人情報の保護／公開に関する規程等

当アーカイブズに関する諸規程のうち、ソフィア・アーカイブズ規程、同所蔵文書利用等規程については先に詳しく解説したが、当アーカイブズの活動が拡大してゆくにともない、さらに多くの規程が必要になってきている。現在策定中の規程は、デジタルアーカイブの公開によって生じた資料に付属する著作権等の権利処理、個人情報の公開の可否を判断するためのガイドラインである。現状では、デジタルアーカイブ学会「肖像権ガイドライン」をローカライズして援用しているが、資料の扱いに熟達していない職員でも利用可能なフローチャートを整える必要がある。また、かかる規程を作成・公開している大学アーカイブズは少ないため、広く一般に公開すれば、業界の発展にも資することができるはずである。さらに、所蔵文書利用等規程に係る、資料原本の貸し出し・利用に関する細則（もしくは内規）についても、早急に策定を進めたい。

④ 活動の拡大・充実：設置校のアーカイブ、地域や他大学との協働

上智大学以外の設置校のアーカイブ作業は、当アーカイブズの最大の課題といってもよい。現在、各設置校を直接訪ね、それぞれのアーカイブズの状況を把握することに努めているが、今後はその調査・整理・保管・公開の作業、それらの基盤となる規程策定を支援してゆく必要がある。しかし現状では、設置校が最も希望しているであろう資金や人員の提供は困難であるため、例えば長期休暇を利用して学生を派遣し、学芸員課程の授業の一環として整理や目録作成を行う（交通費・宿泊費については本学が援助する）、といった仕組みを整えなければならぬ。例えば、最も作業の進んでいる 1 校をモデル・ケースとしてスケジュールを組み、少なくとも目録作成、当アーカイブズによるその把握までを、順次実施してゆくような試みが求められよう。すでに閉校した社会福祉専門学校、学生募集を停止した短期大学部、そして看護学部として合併する前の聖母大学、それらの関連資料の収集・移管・整理も、併せて進めてゆかなければならない。

また、千代田区・新宿区・港区といった隣接地域との協働も欠かせない。これらの地域については、個人の邸宅や企業その他に、未だ内容を知られていない本学関係資料が潜在している可能性もあり、逆に本学に地域の歴史記録が所蔵されている場合もある。地域の教育委員会、博物館や文書館等とも協働しつつ、資料の調査・共有・研究を実施してゆく必要がある。都市の再開発や過疎化によって、とくに行政区画の境界地域の文化財は喪失の危機に瀕しており、管轄の明らかではない史資料のケアにこそ大学が真価を発揮できる余地がある。また、文化財保護法の修正により、地域には文化財の保全のみならず活用が求められているが、多様な学生を抱える大学はそのような実践の場として最適であり、地域の歴史・文化を再発見し活性化してゆく役割も果たせるだろう。当アーカイブズが、かかる地域貢献の要となることは、本学院自体の発展にも直結しよう。

さらに、上に掲げた課題のほとんどは、他の大学アーカイブズ・博物館等も同様に正対していると考えられ、そしてまた同様に、資金や人員の不足によって十分な解決の道を見出せていない。しかし、近隣の大学アーカイブズ・博物館等が何らかの形で提携し、協働してゆけば、上記①～④の幾つかには打開の可能性も見出せるはずである。

■資料1 ソフィア・アーカイブズ運営委員会委員 *運営委員会設置は2020年9月1日

2020年度

役割	氏名	所属	備考
委員長	北條 勝貴	文学部史学科教授、 ソフィア・アーカイブズ(館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第1号
副委員長	木村 増夫	理事長補佐、 ソフィア・アーカイブズ(副館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第2号
委員	李 聖一	イエズス会中等教育担当理事、 カトリック・イエズス会センター長	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第4号
委員	西岡 芳文	文学部特任教授 (課程センター・学芸員課程)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	矢島 基美	法学部法律学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯島 真理子	外国語学部英語学科准教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	グラムリッヒ- 岡 ペティーナ	国際教養学部国際教養学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	杉山 美紀	総務局総務グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	大日方 聖信	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第3号
事務局	大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	

2021年度

役割	氏名	所属	備考
委員長	北條 勝貴	文学部史学科教授、 ソフィア・アーカイブズ(館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第1号
副委員長	木村 増夫	理事長補佐、 ソフィア・アーカイブズ(副館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第2号
委員	李 聖一	イエズス会中等教育担当理事、 カトリック・イエズス会センター長	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第4号
委員	西岡 芳文	文学部特任教授 (課程センター・学芸員課程)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	矢島 基美	法学部法律学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯島 真理子	外国語学部英語学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	グラムリッヒ- 岡 ペティーナ	国際教養学部国際教養学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	杉山 美紀	総務局総務グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	大日方 聖信	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第3号
委員	飯塚 由美子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第3号
事務局	小出 幹彦	ソフィア・アーカイブズ	任期は2021年6月30日まで 事務局は2021年7月1日～ 2022年3月31日
事務局	大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	任期は2021年7月1日～ 2022年3月31日

2022 年度

役割	氏名	所属	備考
委員長	北條 勝貴	文学部史学科教授、 ソフィア・アーカイブズ(館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第1号
副委員長	木村 増夫	理事長補佐、 ソフィア・アーカイブズ(副館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第2号
委員	李 聖一	イエズス会中等教育担当理事、 カトリック・イエズス会センター長	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第4号
委員	西岡 芳文	文学部特任教授 (課程センター・学芸員課程)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	矢島 基美	法学部法律学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯島 真里子	外国語学部英語学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	グラムリッヒ- 岡 ベティーナ	国際教養学部国際教養学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	柴野 京子	文学部新聞学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	杉山 美紀	総務局総務グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯塚 由美子	総務局広報グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号 2022年6月30日までソフィア・ アーカイブズ規程第9条1項第3号 による委員、2022年7月1日から ソフィア・アーカイブズ規程第9条 1項第5号による委員
委員	土持 和久	中等教育事務室(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	長屋 忠	栄光学園中学高等学校(事務統括)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号 任期は2022年7月1日～ 2023年3月31日
委員	柴田 紘孝	六甲学院中学校・高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号 任期は2022年7月1日～ 2023年3月31日
委員	三谷 淳	広島学院中学校・高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号 任期は2022年7月1日～ 2023年3月31日
委員	林 慶太	上智福岡中学高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号 任期は2022年7月1日～ 2023年3月31日
委員	鈴木 雅人	上智大学短期大学部(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第3号
事務局	小出 幹彦	ソフィア・アーカイブズ	事務局は2022年4月1日～ 2023年3月14日
事務局	大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	

2023 年度

役割	氏名	所属	備考
委員長	北條 勝貴	文学部史学科教授、 ソフィア・アーカイブズ(館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第1号
副委員長	木村 増夫	理事、 ソフィア・アーカイブズ(副館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第2号
委員	李 聖一	イエズス会中等教育担当理事、 カトリック・イエズス会センター長	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第4号
委員	西岡 芳文	文学部特任教授 (課程センター・学芸員課程)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	矢島 基美	法学部法律学科教授、人事担当理事	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯島 真里子	外国語学部英語学教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	グラムリッヒ- 岡 ベティーナ	国際教養学部国際教養学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	柴野 京子	文学部新聞学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	杉山 美紀	総務局総務グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯塚 由美子	総務局広報グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	土持 和久	中等教育事務室(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	山田 宏幸	栄光学園中学高等学校(事務統括)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	置村 公男	六甲学院中学校・高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	三谷 淳	広島学院中学校・高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	林 慶太	上智福岡中学高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	鈴木 雅人	上智大学短期大学部(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第3号
事務局	大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	

2024 年度

役割	氏名	所属	備考
委員長	北條 勝貴	文学部史学科教授、 ソフィア・アーカイブズ(館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第1号
副委員長	木村 増夫	理事、 ソフィア・アーカイブズ(副館長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第2号
委員	李 聖一	イエズス会中等教育担当理事、 カトリック・イエズス会センター長	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第4号
委員	西岡 芳文	文学部特任教授 (課程センター・学芸員課程)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	矢島 基美	人事担当理事	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯島 真里子	外国語学部英語学教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	グラムリッヒ- 岡 ベティーナ	国際教養学部国際教養学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	柴野 京子	文学部新聞学科教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	角田 佑一	神学部神学科准教授	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	杉山 美紀	総務局総務グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	飯塚 由美子	総務局広報グループ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	土持 和久	中等教育事務室(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第5号
委員	山田 宏幸	栄光学園中学高等学校(事務統括)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	置村 公男	六甲学院中学校・高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	三谷 淳	広島学院中学校・高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	林 慶太	上智福岡中学高等学校	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	鈴木 雅人	上智大学短期大学部(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第6号
委員	後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	ソフィア・アーカイブズ規程 第9条1項第3号
事務局	大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	
事務局	崎山 みき	ソフィア・アーカイブズ	2024年10月1日より着任

■資料2 6号館1階展示物ワーキンググループメンバー一覧

◇2018年度(2018年11月現在)

氏名	所属等	備考
アガスティン サリ	総務担当理事	
北條 勝貴	文学部史学科准教授	
永井 敦子	文学部フランス文学科教授	新任
西岡 芳文	文学部特任教授(課程センター・学芸員課程)	新任
矢島 基美	法学部法律学科教授	
ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	サバティカル
大日方 聖信	総務局広報グループ長	
正山 耕介	財務局管財グループチームリーダー	
大塚 幸江	総務局広報グループ(上智大学史資料室担当)	事務局
渡邊 由美子	総務局広報グループ	事務局 新任

◇2019年度(2019年7月現在)

氏名	所属等	備考
アガスティン サリ	総務担当理事	
北條 勝貴	文学部史学科教授	
永井 敦子	文学部フランス文学科教授	
西岡 芳文	文学部特任教授(課程センター・学芸員課程)	
矢島 基美	法学部法律学科教授	2019年度サバティカル
ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	
大日方 聖信	総務局広報グループ長	
兼田 言子	学生局学生センター	新任
大塚 幸江	総務局広報グループ(上智大学史資料室担当)	事務局
渡邊 由美子	総務局広報グループ	事務局

◇2020年度(2020年10月現在)

氏名	所属等	備考
アガスティン サリ	総務担当理事	
北條 勝貴	文学部史学科教授	2020年4月ソフィア・アーカイブズ館長就任
永井 敦子	文学部フランス文学科教授	
西岡 芳文	文学部特任教授(課程センター・学芸員課程)	
矢島 基美	法学部法律学科教授	
飯島 真里子	外国語学部英語学科准教授	新任
ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	
大日方 聖信	総務局広報グループ長兼ソフィア・アーカイブズ事務局長	2020年7月から兼務
兼田 言子	学生局学生センター	
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	事務局
渡邊 由美子	総務局広報グループ	事務局

◇ 2021 年度（2021 年 4 月現在）

氏名	所属等	備考
アガスティン サリ	総務担当理事	
北條 勝貴	文学部史学科教授	ソフィア・アーカイブズ館長
永井 敦子	文学部フランス文学科教授	
西岡 芳文	文学部特任教授(課程センター・学芸員課程)	
飯島 真里子	外国語学部英語学科准教授	議長(2021年10月開催第8回～)
ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	オブザーバー(2021年4月～)
大日方 聖信	総務局広報グループ長兼ソフィア・アーカイブズ事務長	2021年6月30日までソフィア・アーカイブズ事務長を兼務
飯塚 由美子	総務局広報グループ長兼ソフィア・アーカイブズ事務長	2021年7月～ソフィア・アーカイブズ事務長を兼務
兼田 言子	学生局学生センター	
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	事務局
渡邊 由美子	総務局広報グループ	事務局

◇ 2022 年（2022 年 4 月現在）

氏名	所属等	備考
アガスティン サリ	総務担当理事	
北條 勝貴	文学部史学科教授	ソフィア・アーカイブズ館長
永井 敦子	文学部フランス文学科教授	
西岡 芳文	文学部特任教授(課程センター・学芸員課程)	
飯島 真里子	外国語学部英語学科教授	議長
ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	オブザーバー
飯塚 由美子	総務局広報グループ長兼ソフィア・アーカイブズ事務長	2022年6月までソフィア・アーカイブズ事務長を兼務
兼田 言子	学生局学生センター	
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	事務局
渡邊 由美子	総務局広報グループ	事務局

◇ 2023 年度（2023 年 5 月現在）

氏名	所属等	備考
アガスティン サリ	理事長兼イエズス会高等教育担当理事兼総務担当理事	2023年5月1日理事長兼イエズス会高等教育担当理事就任(兼総務担当理事)
北條 勝貴	文学部史学科教授	ソフィア・アーカイブズ館長
永井 敦子	文学部フランス文学科教授	学生総務担当副学長
西岡 芳文	文学部特任教授(教職・学芸員課程センター)	ソフィア・アーカイブズ運営委員
飯島 真里子	外国語学部英語学科教授	議長
ウェッセルズ デヴィッド	上智大学名誉教授	オブザーバー
飯塚 由美子	総務局広報グループ長	
兼田 言子	学生局学生センター	
後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ事務長	2022年7月～ソフィア・アーカイブズ事務長
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ(事務局)	
渡邊 由美子	総務局広報グループ(事務局)	

■資料3 設置中高アーカイブズ・ワーキンググループメンバー一覧

◇2022年度

氏名	所属	備考
李 聖一	カトリック・イエズス会センター長	座長
西岡 芳文	文学部	
ウェッセルズ デヴィッド	名誉教授	
湯川 嘉津美	総合人間科学部教育学科	
土持 和久	中等教育事務室	
長屋 忠	栄光学園中学高等学校(事務統括)	
柴田 紘孝	六甲学院中学校・高等学校	
三谷 淳	広島学院中学校・高等学校	
林 慶太	上智福岡中学高等学校	
後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	事務局
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	事務局

◇2023年度

氏名	所属	備考
李 聖一	カトリック・イエズス会センター長	座長
西岡 芳文	文学部	
ウェッセルズ デヴィッド	名誉教授	
湯川 嘉津美	総合人間科学部教育学科	
土持 和久	中等教育事務室	
山田 宏幸	栄光学園中学高等学校(事務統括)	
置村 公男	六甲学院中学校・高等学校	
三谷 淳	広島学院中学校・高等学校	
林 慶太	上智福岡中学高等学校	
後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	事務局
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	事務局

◇2024年度

氏名	所属	備考
李 聖一	カトリック・イエズス会センター長	座長
西岡 芳文	文学部	
ウェッセルズ デヴィッド	名誉教授	
湯川 嘉津美	総合人間科学部教育学科	
土持 和久	中等教育事務室	
山田 宏幸	栄光学園中学高等学校(事務統括)	
置村 公男	六甲学院中学校・高等学校	
三谷 淳	広島学院中学校・高等学校	
林 慶太	上智福岡中学高等学校	
後藤 暁子	ソフィア・アーカイブズ(事務長)	事務局
大塚 幸江	ソフィア・アーカイブズ	事務局

■資料4 企画展示実績（大学公式ホームページより）

3-1-1 2018年度

3-1-1-1 「キリシタンの世紀」

主催：キリシタン文庫

場所：6号館1階展示スペース2

会期：2018年10月19日～2019年3月8日



「高札（がれうた渡海禁止）」（上智大学キリシタン文庫所蔵）

ARTICLES | ニュース | プレスリリース

企画展「キリシタンの世紀」を開催ー長崎・天草「潜伏キリシタン」世界遺産の原点に触れる貴重資料を展示

2018年10月19日～2019年3月8日 上智大学四谷キャンパス

上智大学では、2018年10月19日（金）～2019年3月8日（金）の期間、四谷キャンパスにおいて、企画展「キリシタンの世紀」を開催します。

2018年6月30日、長崎県・熊本県の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されました。約250年にわたり、密やかに信仰を守り続けた「潜伏キリシタン」がはぐくんだ独特の文化に、大きな注目が集まっています。本企画展では、本学キリシタン文庫（所長：神学部教授 佐久間勲）が所蔵する貴重資料7点のレプリカを展示します。

1639年に幕府がポルトガル船の渡航を禁止した全3条からなる最後の鎖国令として知られ、長崎で発布された「がれうた渡海禁止」の高札も公開します。ほかにも、天正渡航少年使節団が渡見した教皇グレゴリウス13世の肖像画や、1590年に前懸使ヴァリニャーノ神父がもたらした日本初の金属活字印刷機で刊行された「キリシタン図」と呼ばれる印刷本も展示します。カトリック・イエズス会の教育機関である本学ならではの貴重資料の展示を通じ、長崎・天草地方の潜伏キリシタン世界遺産の原点を感じていただける内容となっています。

上智大学キリシタン文庫

1939年設立。キリスト教関連図書、特に16世紀フランスコ・ザビエル来日後の約100年間に開花したキリスト教文化を伝える出版物、絵画、工芸品などを収集し、キリシタン史研究の世界的重要な拠点となっている。文庫の総蔵書数は15,800件、そのうち貴重書が約2,330件で、高山樗牛書簡などの古文書も所蔵。本文庫の創設者であるヨハネス・ラウレス教授（ドイツ人、イエズス会司教、1891年生～1959年没）の英文文庫目録（1957年版）をベースに、新発見の資料、貴重書の写真などを加えた最新版の文庫目録「ラウレスキリシタン文庫データベース」を、オンラインで一覧公開している。

ラウレスキリシタン文庫データベース

企画展について

名称	「キリシタンの世紀ーキリシタン・潜伏の貴重資料に学ぶ歴史ー」
開催期間	2018年10月19日（金）～2019年3月8日（金） （平日10～18時、土・日・祭日休館） （休館日の閉館時刻は異なります）
場所	上智大学四谷キャンパス6号館1階展示スペース2（4F）
主催	上智大学
協賛（パトロン）	上智大学キリシタン文庫
お問い合わせ	電話 03-3238-3179

報道関係のお願い

上智大学広報グループ
電話：03-3238-3179
sophia.pr@ci.sophia.ac.jp

3-1-1-2 「イコンに見る聖書の世界ーキリストの受難と復活ー 鞠安日出子の祈り」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館 1階展示スペース2 および 2号館 1階カトリック・イエズス会センター入口横

会期：2019年3月12日～6月20日



展示作品より「復活」

上智大学では、2019年3月12日(火)～6月20日(木)の期間、西田キャンパスにおいて、企画展「イコンに見る聖書の世界ーキリストの受難と復活ー」を開催します。

イコンは、ギリシア語の「肖像」、「似姿」、「イメージ」を意味する「エイコーン」を略語としています。本として東方正教会で信仰されている最聖の聖像像のことを指し、キリスト、聖母、聖人や聖書の場面が描かれたものなどで構成されています。日本にイコンがもたらされたのは、明治時代に黒河田ニコライ堂を完成させたロシアからの宣教師ニコライ・カサートキンがイコンを学ぶ日本人画家をロシアに派遣したのが始まりです。

2013年、本学の創立100周年に際して、日本を代表するイコン画家の鞠安日出子(まりあ・ひでこ)氏から多数のイコンが寄贈されました。日本画家としてキャリアをスタートさせ、その技法を巧みに取り入れた鞠安氏ならではの手法で描かれた作品は国内外で高い評価を得ていますが、今回の企画展では、その中からキリスト教の重要な祝日であるイースター(復活祭、2019年は4月21日)をテーマに、関連する作品5点を選びました。

6号館1階の展示スペースには、『エルサレム入城』『磔刑』『復活』の3点、2号館1階のカトリックセンター入口の横には『昇天』『聖霊降臨』の2点を展示します(いずれも縦約160cm×横約130cm)。また、カトリックセンター入口の横では、寄贈展示品として贈られている大作『宇宙の支配者 救世主イエス・キリスト』も鑑賞可能となっています。

企画展について

名称	「イコンに見る聖書の世界ーキリストの受難と復活ー」
会期	2019年3月12日(火)～6月20日(木) 9時30分～18時0分(土曜・日曜・祭日休館) ※都合により休館はあります。
場所	上智大学西田キャンパス(西田)西田キャンパス6号館1階 カトリックセンター入口横 (カトリックセンター内)
主催	上智大学
協賛(共催)	上智大学カトリックセンター
お問い合わせ	電話 03-3238-4111

報道関係の問い合わせ先

上智大学広報グループ
電話 03-3238-3179
sophia@cl.sophia.ac.jp

3-1-2 2019 年度

3-1-2-1 「上南戦第 60 回記念大会 —スポーツを通じた交流の歴史—」

主催：上智大学、協力：南山学園南山アーカイブズ

場所：6 号館 1 階展示スペース 2

会期：2019 年 6 月 24 日～9 月 18 日

企画展「上南戦第60回記念大会—スポーツを通じた交流の歴史—」を開催

6月24日から9月18日までの間、6号館1階展示スペースにおいて、企画展「上南戦第60回記念大会—スポーツを通じた交流の歴史—」を開催しています。上智大学・南山大学総合体育振興部は、カトリックという共通の基盤をもつ本学と南山大学が、体育祭の開催を中心として試合を行い、両校の交流を深める同窓会です。

「第1回上智大学・南山大学定期戦」として1960年6月25・26日に南山大学で開催されてから、これまで一度も中止することなく今年で60回目を迎えました。第1回大会の対戦競技は、アイスホッケー、野球、サッカー、卓球、柔道、バスケットボール、テニスおよびバレーボールの7競技のみでしたが、現在では両校間で35競技に発展し、EIS、音楽祭、総動員運動、写真展などの文化交流も行っています。今年の上南戦は、本学を主舞台として7月5日から7日までの日程で開催されます。

本企画展では、第60回記念大会にふさわしく、両校のスポーツを通じた交流の歴史を、多数の写真を中心に展示しています。そのほか、第1回と今年のはんぷれットや、南山大学が保管している第2回大会に本学が贈ったバントなども展示しています。また、今大会に込めた両校のスローガンを実行委員長の写真とともに展示、他校員も併せて紹介しています。

開催日程：6月24日（月）～9月18日（水）
時間：平日10：00～17：00（9月18日 入場無料）
問い合わせ：総務部広報グループ 電話03（3238）3179
なお、6号館企画展の感想はこちらまで。exhibition.tbld@intl.sophia.ac.jp

3-1-2-2 「ロシアの風景」

主催：外国語学部ロシア語学科

場所：6号館 1階展示スペース3

会期：2019年7月16日～11月22日

ARTICLES | ニュース | お知らせ

6号館1階展示スペース3で企画展「ロシアの風景」を開催中です

2019.08.06



6号館1階展示スペース3

7月16日から、6号館1階展示スペース3（Sカフェ斜め前）において、企画展「ロシアの風景」が開催されています。

外国語学部ロシア語学科主催によるもので、

「プロローグ上智大学ロシア語学科へようこそ」

「留学生の見たロシアの風景」

「ロシアの食文化」

「ロシア文化における熊」

の4つのパートに分けて、解説パネル、写真、協定校地図で本学のロシア語学科とロシアを紹介。サモワール（伝統的な給茶器）、陶器、民芸品なども展示しており、ロシアをさまざまな角度から知ることができる企画となっています。

是非、ご覧ください。

開催日程：7月16日（火）～終了未定

時間：平日10：00～17：00（予約不要・入場無料）

問い合わせ：広報グループ



3-1-2-3 「国際部創設 70 周年」

共催：国際教養学部・上智大学史資料室

場所：6 号館 1 階展示スペース 2

会期：2019 年 9 月 20 日～2020 年 3 月 16 日

ARTICLES | ニュース | お知らせ

2019.09.24

6号館1階展示スペース2で企画展「国際部創設70周年」を開催中です

Twitter Facebook Messenger Line Email



9月20日から、6号館1階展示スペースにおいて、企画展「国際部創設70周年」が開催されています。

今年は、国際教養学部の前身にあたる国際部が1949年に創設されてから70年目の節目となります。国際部は、戦後間もなく、駐留米軍の兵士とその家族を主な対象として開講した夜間プログラムでした。日本はまだ戦後の貧困にあり、国際部の様子は、女性の在籍比率が3分の1を超えていたことや服装の華やかさなどにおいて当時の日本社会とは異なるようになっていました。本企画展では、その70年の変遷をさまざまな年代の資料から取り上げて紹介しています。



また、9月末で廃止となる市谷キャンパスは、1974年の竣工以来、2006年に国際教養学部として両キャンパスに移転するまで、長きにわたり本学の国際交流の拠点でした。その市谷キャンパスのさまざまな写真を見ることが出来る展示となっています。

会期：9月20日（金）～

時間：平日10：00～17：00（予約不要・入場無料）

問い合わせ：総務局広報グループ 電話 03（3238）3179

なお、6号館企画展の感想はこちらまで。exhibition.6bldg@ml.sophia.ac.jp

Twitter Facebook Messenger Line Email

3-1-2-4 教皇フランシスコ来訪記念写真展「ローマ教皇と上智大学」

主催：上智大学

場所：2号館 1階エントランス

会期：2019年11月14日～12月20日

ARTICS | ニュース | お知らせ

2019.11.14

教皇フランシスコ来訪記念写真展「ローマ教皇と上智大学」を開催中です

Twitter Facebook Messenger Email Print



11月14日から、2号館1階エントランスにおいて、教皇フランシスコ来訪記念写真展「ローマ教皇と上智大学」が開催されています。

本学の歴史を紐解くと、ローマ教皇との関わりは深く、本学の設立に重要な役割を果たしたコゼフ・ダールマン神父は聖ピウス10世教皇に謁見した際、日本に高等教育機関を設立することの必要性を伝えました。それを受け、聖ピウス10世教皇は日本におけるカトリック大学の設立をイエズス会に要請し、1913年に本学が開校しました。



写真展では、ローマ教皇と本学の関わりを年表で振り返るとともに、聖コハネ・パウロ2世教皇が来校した際の写真と本学に対する贈答の言葉を紹介。

また、教皇フランシスコが2013年の本学設立100周年に寄せた書簡や、2017年12月の「教皇フランシスコと話そう」の企画で語った学生へのメッセージも展示しています。

会期：11月14日（木）～12月20日（金）

時間：平日10：00～17：00（予約不要・入場無料）

問い合わせ：総務局広報グループ 電話03（3238）3179

なお、写真展の感想はこちらまで、exhibition.6bldg@ml.sophia.ac.jp

Twitter Facebook Messenger Email Print

3-1-2-5 ローマ教皇来日記念写真点 ジョー・オダネル写真展「戦争がもたらすもの」

主催：上智大学、NPO 法人アース・アイデンティティ・プロジェクト、後援：TBS テレビ、協力：TBS スパークル／Kimiko O' Donnell／大原哲夫編集室／山崎真

場所：6号館1階エントランス

会期：2019年11月15日～11月29日

[illegible]

3-1-2-6 「ローマ教皇と上智大学」

主催：上智大学

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2019年11月25日～2021年8月8日

ARTICLES | ニュース | お知らせ

企画展「ローマ教皇と上智大学」を開催中です

2019.11.22



6号館1階展示スペース3において、企画展「ローマ教皇と上智大学」を開催中です。
教皇フランシスコの来校への感謝と歓迎の意を示し、聖ヨハネ・パウロ2世教皇とヨゼフ・ビタウ学長（当時）を描いた絵画、創立100周年の際に教皇フランシスコから贈られた祝福状（レプリカ）などを展示しています。



また、小型モニターを設置し、2017年12月に行われた「教皇フランシスコと話そう」の映像を流しています。是非、ご覧ください。

会 期：2019年11月25日（月）～

場 所：6号館1階展示スペース3

問い合わせ：総務局広報グループ 電話03（3238）3179

なお、写真展の感想はこちらまで。exhibition.6bldg@ml.sophia.ac.jp

12月20日（金）まで、2号館1階エントランスにおいて、教皇フランシスコ来訪記念写真展「ローマ教皇と上智大学」も開催中です。併せて、ご覧ください。

3-1-2-7 「教皇フランシスコ 来校ありがとう」

主催：上智大学

場所：6号館1階展示スペース2

会期：2020年3月17日～2021年10月6日

ARTICLES | ニュース | お知らせ

企画展「教皇フランシスコ、来校ありがとう」を開催中です

3月17日から、6号館1階展示スペース2において、企画展「教皇フランシスコ、来校ありがとう」が開催中です。昨年11月26日に教皇フランシスコが来校した際の大学を挙げての歓迎の様子と、教皇の足跡を写真と所縁の品々で紹介しています。



ガラス面には、教皇の直筆メッセージがカットイングシートの切り文字として装飾されており、原文のスペイン語のほか、日本語と英語に翻訳。これは来校時に教皇が芳名帳に書いたもので、その写真も併せて展示されています。

また、教皇から本学に贈られた純銀製のレリーフをパネルで紹介。このレリーフは1989年のマリーノ・マンドレージの作品で、イタリアのガエータ市にある聖堂のために、シビオネ・ブルゾーネが1582年に描いた「聖母マリアの無原罪の御宿り」が元になっています。複雑な形を精密に作ることができる、ロストワックス鋳造法で制作されています。そのほか、カトリック中央協議会「POPE IN JAPAN 2019」から寄贈された、教皇が本学での講演時に使用した椅子などを展示しています。

会期：3月17日（火）～

時間：平日10：00～17：00（予約不要・入場無料）

問合せ：総務局広報グループ 電話03（3238）3179



関連して、2号館エントランスロビーでは以下の写真展を開催予定です。

▼「若者へのメッセージ」

東京カテドラル聖マリア大聖堂にて（2019年11月25日）

上智大学訪問にて（2019年11月26日）

会期：3月25日（水）～

主催・問合せ：カトリック・イエズス会センター 電話03（3238）4161

▼「平和と環境についてのメッセージ」

長崎・広島（2019年11月24日）

三重災害（地震・津波・原発事故）被災者との集まり（2019年11月25日）

会期：3月25日（水）～

主催：きらきら星ネット（福島原発事故による避難者・被災者をサポートする市民グループ）

問合せ：カトリック・イエズス会センター 電話03（3238）4161

3-1-4 2021 年度

3-1-4-1 「聖イグナチオ」展 ※同じ内容のパネルを中高4校巡回展示用にも制作

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：2号館1階カトリック・イエズス会センター壁面

会期：2021年6月18日～（常設）

聖イグナチオ年記念展示会

2021.06.18



カトリック・イエズス会センター長
李 聖一

「聖イグナチオ年」記念展示会のお知らせ

イエズス会は2021年5月20日から2022年7月31日までを「聖イグナチオ年」と決めました。イエズス会の創立者である聖イグナチオ・デ・ロヨラの生涯を絵画パネルで展示いたします。

テーマ 『聖イグナチオの足跡と共に・・・』

場 所 カトリック・イエズス会センター前（2号館1階）

開催期間 2021年6月18日（金）～2022年5月31日（火）予定



なお、この展示会は、上智短期大学部をはじめ中等教育部門4校にも随時、巡回開催される予定です。

（上智学院カトリック・イエズス会センターホームページより）

3-1-4-2 「新カトリック大事『展』」

主催：新カトリック大事典編集部

場所：6号館 1階展示スペース3 および図書館 1階

会期：(6号館 1階) 2021年8月9日～2022年3月21日、(図書館)2021年8月9日～10月22日

NEWS | ニュース | お知らせ

企画展「新カトリック大事『展』」を開催中です

6号館1階展示スペース3および図書館1階において、企画展「新カトリック大事『展』」が開催中です。

『新カトリック大事典』は、本学が1977年に企画を開始し、1996年から2010年にかけて全4巻と別巻を上梓したものです。大学出版事業としては稀な百科事典です。現在は、オンライン供用により、学生や研究者など広く社会に貢献しています。



新カトリック大事典



6号館1階展示スペース3の展示の様子

6号館1階展示スペース3では、前身の『カトリック大事典』を含む年譜のバネルなどの展示の他、モニターで大事典の成り立ちを紹介する動画を流しています。

長谷川コハネ・パウロ2世とベネディクト16世から編集部へ贈られた祝辞入りの写真や、両教皇に御見し大事典を献呈する第2代編集長の高橋俊一名誉教授（イエズス会）の写真なども公開しています。

一方、図書館1階では、困難を極めた編集過程や新聞・雑誌の報道の様子に加え、貴重な手書きのオリジナル原稿などを紹介。他の百科事典と比較ができるコーナーも設けています。また、それぞれの会場で、両方の展示を見ながら解くクロスワード問題を配布しています。



手書きのオリジナル原稿



図書館1階での展示の様子

▼会期：8月7日（土）～ 図書館の会期は10月22日（金）まで

▼主催：新カトリック大事典編集部

▼問合せ先：総務局広報グループ 電話03（3738）3179

3-1-4-3 「聖イグナチオの霊的な遺産」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：2021年10月7日～2022年12月12日

ARTICLES / ニュース お知らせ

企画展「聖イグナチオの霊的な遺産」を開催中です



本館には聖イグナチオと3点の絵画のパネルを展示

6号館1階展示スペースにおいて、企画展「聖イグナチオの霊的な遺産」が開催中です。2号館1階カトリック・イエズス会センター前の壁面で開催中の企画展「聖イグナチオの足跡と共に・・・」と連動したもので、「聖イグナチオ年」を記念する企画のひとつです。

展示は3部構成となっています。左側には、「聖フランシスコ・ザビエル像」「紙本彩色聖母十五玄義・聖体秘跡図」「聖イグナチオと二人の同志たち、聖ペトロ・ファープル、聖フランシスコ・ザビエル」の3点の絵画をパネルにして展示。聖イグナチオと聖フランシスコ・ザビエルとの関わりなどを紹介しています。



聖イグナチオの部屋（スータン）や帽子（ビレッタ）

中央の展示は、聖イグナチオが居住し、祈り、ミサを捧げ、イエズス会初代総長として職務を果たしていたイエズス会本部（ローマ）の部屋をモチーフにしました。聖イグナチオは、この部屋で世界各地へ派遣した宣教師からの報告を受け取り、励ましと手紙に富んだ約7,000通の手紙を書き送りました。机の上には、聖イグナチオの著作『霊操』なども置かれています。

右側では、日本の文化に合わせて近年仕立てられた宣教師の服（スータン）や帽子（ビレッタ）などを見ることができます。

▼展示期間：10月7日（木）～

▼主催・問合せ：カトリック・イエズス会センター
catholic-co@sophia.ac.jp

2021.10.07



3-1-4-4 「千代田区の歴史発掘 ―占領下のアメリカ文化―」

主催：アメリカ・カナダ研究所

場所：6号館 1階展示スペース 3

会期：2022年3月23日～2022年12月11日

※開館時間：10:00～18:00 ※休館日あり

企画展「千代田区の歴史発掘―占領下のアメリカ文化―」を開催中です

6号館1階展示スペース3および図書館1階で、アメリカ・カナダ研究所による企画展「千代田区の歴史発掘―占領下のアメリカ文化―」が開催されています。

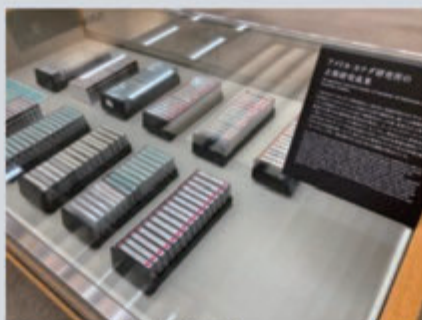
この企画展は、千代田区が実施する「2021年度千代田学事業推進制度」の支援を受けて、外国語学部北米研究コース専攻の学生が調査した結果の一部を公開したものです。



6号館1階展示スペース3の展示の様子

6号館1階展示スペース3では、今から約75年前に建てられた住宅地区に焦点をあてた研究の成果をパネルやモニターで紹介しています。

第二次世界大戦直後に占領軍から半室に払い下げられ、学生寮などとして使用されていた Quonset House（クワンセットハウス）の写真も見ることができます。



オーラルヒストリーコレクションのカセットテープ

一方、図書館1階では、『占領軍国連史』の貴重資料、および1940年代後半に発行された住宅雑誌や児童書などを紹介。

これらは、文学部の館コンラッド・フォルテン教授が主として主宰していたカナダセンターと、外国語学部の保下ナオミ・メイソン教授のアメリカ関連の図書コレクションを統合して1997年に開設された、アメリカ・カナダ研究所が所蔵するもの。同研究所の占領研究成果であるオーラルヒストリーコレクションのカセットテープも多数展示しています。



図書館1階での展示の様子

▼会期：3月23日（水）～ 終期未定

▼主催・問い合わせ先：アメリカ・カナダ研究所 instacc@sophia.ac.jp

★8:00に定例して巡回ください。

本企画展は、千代田区在住・活動の皆さまをはじめどなたでもご覧いただけます。

図書館の入館時には、受付で「1階展示スペース」をお申し出ください。

2022.03.25



3-1-5 2022 年度

3-1-5-1 「上智大学新聞学科と日本の新聞学」

主催：文学部新聞学科

場所：6号館 1階展示スペース 2

会期：2022年12月14日～2023年5月30日

ARTICLES | ニュース お知らせ

企画展「上智大学新聞学科と日本の新聞学」を開催中です

文学部新聞学科は、1932年に前身である専門部新聞学科が設置されて今年で創設90周年を迎えました。これを記念して、6号館1階展示スペース2において、同学科主催の企画展「上智大学新聞学科と日本の新聞学」が開催中です。

1948年に学校教育法による新制大学として本学が発足した後、1951年に専門部は廃止され、文学部新聞学科となりました。初代新聞学科長に就任したのは小野秀雄氏です。

本企画展は、日本におけるジャーナリズム研究とマスコミ研究のフロンティアである「小野秀雄」と言う人物と、学問としての「日本の新聞学」を軸に、本学新聞学科の誕生へと繋がっていきます。開催にあたり発見された「小野秀雄所蔵資料」にも注目して頂きたいです。

また、新聞学科の授業で本学「テレビセンター」を活用して学生が制作した作品やコンクール等で受賞した作品のダイジェスト映像もご覧いただけます。

教育・研究の実践の記録として、90年と言う歴史のある本学新聞学科のあゆみを感じてください。



2022.12.14



場所：6号館（ソフィアタワー）1階展示スペース2

期間：2022年12月14日（水）～（終了時期未定）

主催：上智大学文学部新聞学科

協力：上智学院ソフィア・アーカイブズ

問合せ：上智学院ソフィア・アーカイブズ

sophia-archives-co@sophia.ac.jp



3-1-5-2 「フランスにおける『服』と『政治』」

主催：外国語学部フランス語学科 サルブラン先生のゼミ

場所：6号館 1階展示スペース3

会期：2022年12月14日～2023年10月11日

ARTICLES | ニュース | お知らせ

企画展「フランスにおける『服』と『政治』」を開催中です

2022.12.14



6号館1階展示スペース3では、企画展「フランスにおける『服』と『政治』」が開催中です。

本企画展は、外国語学部フランス語学科Simon Serverin准教授と同准教授の日仏政治比較ゼミの11人の学生によって企画・作成されました。

私たちが日常着ている衣服は寒さや日差しなどの環境から身を守るという役割がある一方で、社会の構成員の性別、年齢、地位、機能といった社会的な意味を持つものでもあります。

本企画展では、フランスにおける「服」と「政治」のさまざまな繋がりを、次の4つのテーマに絞って追及していきます。

「政治家と服：カリスマ性を高めるツールとしての服装」

「女性の政治活動と服：女性の服装に対する政治的制約」

「政治運動と服：フランス革命のサンキュロットと黄色いベスト運動」

「宗教と服：自己表現としての服と政治的抑制」

また日仏政治比較ゼミの学生と、服飾史の専門家Yvane Jacobさんとの対談の映像も併せてご覧いただけます。



場所：6号館（ソフィアタワー）1階展示スペース3

期間：2022年12月14日（水）～（終了時期未定）

主催：外国語学部フランス語学科日仏政治比較ゼミ

問合せ：上智学院ソフィア・アーカイブズ

sophia-archives-co@sophia.ac.jp

3-1-6 2023 年度

3-1-6-1 「NAGASAKI から世界へ『平和を』 被爆医師 永井隆と妻緑からのメッセージ」

※長崎市永井隆記念館から展示パネル借用

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6 号館 1 階展示スペース 2

会期：第 1 期 2023 年 6 月 1 日～7 月 27 日、第 2 期 2023 年 8 月 1 日～10 月 12 日

企画展「長崎から世界へ『平和を』 被爆医師 永井隆と妻 緑 からのメッセージ」を2会場で開催中です



ウクライナでの戦争における核兵器使用の脅威が高まる中、被爆国日本からのメッセージ発信は急務となっています。巨輪の原爆で妻を失いながらも、医師として献身的に被爆者の救済にあたり、多くの苦行を授けられた医師、永井隆。彼は、原子爆弾で被爆する前、すでにレントゲン治療での被爆により白血病となり、余命3年を宣告されていました。放射線医学の専門医として、彼は原爆の人体に与える影響の恐ろしさを見抜き、いち早く聲を上げました。

これからの戦争が最終的には核兵器を用いる戦争となることを予感した永井博士は、「あらゆる戦争を止めよ」というメッセージを発信し続けました。

戦後、彼の著書は活ベストセラーとなり、土著『巨輪の影』が映画化されるなど、多くの関心を集めました。今、彼とその妻緑の生き方とメッセージに世界中の人々が心を動かされ、再び注目を集めています。

そして永井夫妻の長男の誠一(まこと)氏は、本学新聞学科の卒業生でもあります。この絆を継承するのが、北門外の右側に展開された『永井千太郎』(※1)の2世です。

※1『永井千太郎』は、永井隆博士が1940年(昭和15年)に、原爆で焼け野原となった長崎・通上町地に孤児を救って養育された1200名の孤児です。土著大学は、恒久平和を願った永井隆博士の思いを後世に伝えるべく、『永井千太郎』から採り上げられた2名の孤児を、2011年北門外の右側に展開しました。

2号館ではパネルを中心とした展示を、6号館では、永井隆記念館(長崎市・永井隆三郎館)のご厚意によりご提供いただいたパネルを中心に展示しています。"For Others, With Others"の精神に貫かれた永井夫妻の生涯とメッセージを是非ご覧ください。

2号館1階エントランス
会期：6月1日～6月29日

6号館1階展示スペース2
会期：第1回 6月1日～7月27日 第2回 8月1日～9月27日(予定)
※期間ごとに展示パネルの入れ替えがあります。

関連イベント
国連Weeks June 2023 シンポジウム
「NAGASAKIから世界へ『平和を』—被爆医師永井隆と妻緑からのメッセージ—」
日時：2023年6月3日(土) 15:00～17:00
■ 詳細・お申込みはこちらをご覧ください

主催・問合せ先：カトリック・イエズス会センター
Email: catholic-col@sophia.ac.jp

3-1-6-2 「上智の『鷺』とともに ―大学の理想と『校章』―」

主催：ソフィア・アーカイブズ

場所：6号館 1階展示スペース2 および図書館 1階

会期：(6号館 1階) 2023年10月13日～2024年9月17日、(図書館)2024年3月25日～5月30日

3-1-6-3 「他者のために、他者とともに 上智大学短期大学部サービスラーニングの挑戦」

主催：上智大学短期大学部

場所：6号館 1階展示スペース3

会期：2023年10月13日～2024年1月19日

ARTICLES | ニュース | トピックス

6号館1階展示スペースで2つの企画展を同時開催中です

■企画展「上智大学の『鷺』とともに ―大学の理想と『校章』―」 展示スペース2

本学は1913に創立され、今年110周年を迎えています。これを記念する企画の一つとして、ソフィア・アーカイブズ主催の校章にまつわる企画展を開催しています。

現在校章などで使用している本学のシンボルは、羽ばたく「鷺」がモチーフになっており、その鷺の胸には、本学の標語である「真理の光」"Lux Veritatis" (ラテン語)の頭文字のLとVが記されています。鷺が太陽に向かってまっしぐらに飛んでいくように、上智の学生は「真理の光」をめざしてひたむきに学び、よりよい未来を拓いてほしいという、大学の願いが込められています。

本企画展主催のソフィア・アーカイブズが所蔵する資料の中から、えりすぐりの上智の「鷺」を展示。担当者は「企画展を通じ、大学が時代を超えて変わらず追求している理想を感じ取ってもらいたい」と話しています。

ポスターは[こちら](#)

■企画展「他者のために、他者とともに：上智大学短期大学部サービスラーニングの挑戦」 展示スペース3

本企画展は上智大学短期大学部が主催。

上智短期大学（現上智大学短期大学部、神奈川県秦野市）は1973年に開校しました。その頃、秦野市は難民定住センターを軸にインドシナ諸国からの外国人が住む地域となっていました。短期大学ではこうした状況を踏まえ、88年から「家庭教師ボランティア」を開始。秦野市在住の外国人や日系人の家庭を訪問し、日本語などの学習支援を行ってきました。この活動は2008年にサービスラーニングとなり、19年からは正課科目として学生自身の学修を深める機会にもなっています。35年にわたる短期大学と地域社会の連携活動を展示で詳細に紹介しています。

なお、大学での展示終了後、秦野キャンパスや秦野市役所への巡回展を予定しています。

ポスターは[こちら](#)

(両企画展とも)

▼会期：10月13日（金）～ 終期は未定

▼問合せ先：ソフィア・アーカイブズ ☎ 電話03（3238）3294

■学生の方 ■一般・社会の方

2023.10.13

[X](#) [f](#) [t](#) [v](#)



「上智大学の『鷺』とともに ―大学の理想と『校章』―」 展示スペース2



「他者のために、他者とともに：上智大学短期大学部サービスラーニングの挑戦」 展示スペース3

3-1-6-4 「人間 アルベ神父に問う Men for Others 展」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館 1階展示スペース3

会期：2024年1月22日～10月8日

ARTICLES ニュース お知らせ

企画展「人間 アルベ神父に問う Men For Others展」を開催中です



2023年は、イエズス会の元総長ベドロ・アルベ神父がスペインのバレンシアで“Men For Others”の講演を行ってから50年の節目の年でした。

企画展では、アルベ神父の略歴や人柄、現代につながるメッセージなどに加えて、原爆が投下された当時、広島の長束修道院長を務めていたアルベ神父が修道院を教護所として開放し、被爆者の手当てをした経緯なども紹介しています。アルベ神父や本学の教育精神“Men For Others, with Others”の真の意味を感じてください。

なお本企画展は神学部准教授の酒井陽介神父が監修し、4人の学生の協力により開催に至りました。

ポスターは[こちら](#)です

展示詳細情報

- 場所：6号館（ソフィアタワー）1階展示スペース3
- 期間：2024年1月22日（月）～（終了時期未定）
- 主催・問合せ：上智学院カトリック・イエズス会センター
catholic-co@sophia.ac.jp

#企画展

2024.01.22

X F G+ O Q

3-1-7 2024 年度

3-1-7-1 「鞠安日出子アイコン・日本画展 -生きる力-」

主催：カトリック・イエズス会センター

場所：6号館1階展示スペース2

会期：2024年9月25日～10月18日

鞠安日出子 アイコン展 日本画展 -生きる力-



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

鞠安日出子
アイコン・日本画展
—生きる力—

作者紹介
アイコン画家 鞠安日出子 Hideko Maria
1940年長野県生まれ。
1962年東京学芸大学美術科卒業。
日本美術院入選2回、春の院展入選6回。
大洞御会館受賞2回、ブロードウェイ大賞展一回

HIDEKO MARIA EXHIBITION OF IKONS AND JAPANESE STYLE PAINTINGS —THE WILL TO LIVE—

2024
日 時 9/25 WED. - 10/18 FRI.
10:00 - 17:00 ※平日のみ開催

講演会 鞠安日出子 講演会 9/25 WED. 17:30 - 18:30
テーマ「生きる力：天と地の扶綱を生きる」
The Will to Live — Living Between Heaven and Earth

入場無料・申込不要 場所：上智大学2号館1階カトリック・イエズス会センター

場 所 上智大学2号館1階ロビー&カトリック・イエズス会センター、6号館1階
Sophia University Catholic Jesuit Center / Entrance Hall Bldg. #2 & Bldg. #6



主 催 上智大学カトリック・イエズス会センター
共 催 上智学院フロンティア・カレッジ
お問い合わせ：catholic-cc@sophia.ac.jp 03-3238-4141

【講演会】日時：9月25日（水）17:30-18:30

場所：2号館1階カトリック・イエズス会センター

【日本画展】日時：9月25日（水）～10月18日（金）10:00-17:00

場所：2号館1階ロビー&カトリック・イエズス会センター、6号館1階

3-1-7-2 「カンボジアでのソフィア・ミッション（1979年～2023年）難民救済活動からアンコール・ワット西参道完成まで」

主催：アジア人材養成研究センター

場所：6号館 1階展示スペース2、3

会期：2024年10月22日～2025年4月30日



6号館の建物大通り沿いに面した出入り口近くにてアンコール・ワットの巨大模型も展示中

企画展「カンボジアでのソフィア・ミッション（1979年～2023年）難民救済活動からアンコール・ワット西参道完成まで」を開催中です。

本展では、元上智大学長でアジア人材養成研究センター所長である石澤良昭教授を中心とする、本学の33年にわたるカンボジア人の遺跡保存官養成とアンコール・ワット西参道修復工事完了までの活動を振り返ります。

また「世界をつなぐひとになれ」というテーマも掲げており、上智大学の学生や上智学院が設置する中高4校（栄光学園中学高等学校、六甲学院中学・高等学校、広島学院中学校・高等学校、上智福岡中学高等学校）の教員や生徒による現地での活動などについてもご紹介しています。

ポスターは[こちら](#) 

展示詳細情報

- 場 所：6号館（ソフィアタワー）1階展示スペース2および展示スペース3
- 開 館：平日・土曜日 10:00～17:00
閉 館：日曜日・祝日、2月5日～11日（入学試験のため）
※大学の定める休日、6号館閉館時は見学不可
※予約不要・入場無料・自由見学
- 期 間：2024年10月21日（月）～ 2025年4月末日
- 主 催：アジア人材養成研究センター
- 問合せ：上智学院ソフィア・アーカイブズ [exhibition_archives \[at\] ml.sophia.ac.jp](mailto:exhibition_archives@ml.sophia.ac.jp)

日時：2019年1月15日
18時45分～20時

火曜日

場所：6-502 教室（6号館5階）

講師：川村信三教授（文学部史学科）

対象：学生、教職員、一般の方

※入場無料・要事前申込

申込先 <https://eipo.jp/sophia/seminars/>



企画展「キリシタンの世紀」

長崎・天草「潜伏キリシタン」世界遺産の原点に触れる貴重資料を展示中
(四谷キャンパス 6号館1階展示コーナーにて 2019年3月8日まで)

2018年6月30日、長崎県・熊本県の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されました。約250年にわたり、密やかに信仰を守り続けた「潜伏キリシタン」がはぐくんだ独特の文化に、大きな注目が集まっています。

そこで本学では、企画展「キリシタンの世紀」を6号館1階展示スペースにて開催し、キリシタン文庫が所蔵する貴重資料の中から、キリシタンの心の支えとなった出版物など7点を選びすぐってレプリカを展示中です。1639年に幕府がポルトガル船の渡航を禁止して発した最後の鎖国令として知られている「がれうた渡海禁止」（長崎で発布）の高札も公開中です。

今回、この企画展にあわせて展示品の解説を含む講演会を開催します。皆様のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先：総務局広報グループ

Tel. 03-3238-3179 / Fax. 03-3238-3539



共催 上智大学キリシタン文庫
上智学院総務局広報グループ

企画展「キリシタンの世紀」講演会
長崎と天草地方の潜伏キリシタン
～潜伏キリシタンは世界的事件なのか～



イコンに見る聖書の世界 —キリストの受難と復活—

鞠安日出子の祈り



▲ 展示作品より「復活」

イコンは、ギリシア語の「肖像」、「似姿」、「イメージ」を意味する「エイコーン」を語源とし、主として東方正教会で崇拝されている板絵の聖画像を意味します。イコンは、キリスト、聖母、聖人や聖書の場面が描かれたものなどで構成されています。日本にイコンがもたらされたのは、明治時代に駿河台にニコライ堂を完成させたロシアからの宣教師ニコライ・カサートキンがイコンを学ぶ日本人画家をロシアに派遣したのが始まりです。

2013年、本学の創立100周年に寄せて、日本を代表するイコン作家の鞠安日出子氏から多数のイコンが寄贈されました。その中からキリスト教の重要な祝日であるイースター（復活祭、2019年は4月21日）をテーマに、関連する作品5点を展示いたします。

作家紹介

イコン画家

鞠安 日出子
Hideko Maria

1940年長野県生まれ、1962年東京学芸大学美術科卒業、
日本美術院展入選2回、春の院展入選6回、
大調和会展受賞2回、ブロードウェイ大賞展一席



会期 2019年3月12日(火)～6月20日(木)
平日10:00～17:00(予約不要・入場無料)

場所 上智大学四谷キャンパス6号館1階展示コーナー
および2号館1階カトリックセンター入口横(廊下)
(千代田区紀尾井町7-1)
※駐車場のご用意はありません

主催 上智大学

問い合わせ 上智大学カトリックセンター(2号館1階)
電話: 03-3238-4161



撮影はご遠慮ください
NO PHOTOGRAPHY

✦ 6号館1階展示コーナー



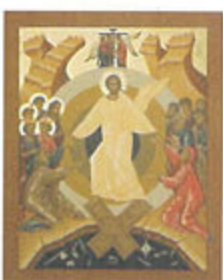
1. 『エルサレム入城』 ルカ 19.28-38

十字架での死を覚悟したイエスは、ザカリヤが預言したようにロバに乗ってエルサレムに入城したと聖書にあります。それまで徒歩だったイエスが愚かで弱いロバの子に乗ったことは、十字架に自らの命を捧げたイエス・キリストだけが、理性のない愚かな人々、重荷を背負って歩く人々を、真の救い主である王として抑止できることを示唆していると言われます。それを理解できないエルサレムの人々は、世俗的戦勝者の王、馬に乗るメシア的王(イコン)として、城外にまで出て衣服や枝を敷いて、賞賛と大歓迎のうちにイエスを迎えます。(中段右、下段)。しかし、イエスを待つのはゴルゴダの山(上段左)と十字架(上段の木)での死です。エルサレムの人々はイエスを十字架に架けます。このことを知っているのは真の救い主である王イエス・キリストだけです。共にいる弟子達(中段左)さえこのことを知りません。死を覚悟してエルサレムに入城するイエスの姿は、後、十字架で死に打ち勝って勝利する王、真の救い主である王イエス・キリストを示唆しています。



2. 『磔刑』 マタイ 27.33-37 マルコ 15.22-26 ルカ 23.33-34 ヨハネ 19.17b-27

ゴルゴダ(されこうべ)でイエスは十字架に架けられます。イエスの“成し遂げ”を助ける天使達(上段)がいます。ゴルゴダを貫いてアダムのされこうべがある黄泉(下段)にまで届いている十字架は、イエスが、十字架での死を通して人類に救いをもたらしたことを示します。十字架に“ナザレのイエス、ユダヤ人の王”と“死によりて死に打ち勝つ”とあります。聖母マリアとマグダラのマリア(左)がいます。聖母は悲しみの内にもこの出来事を受け入れています。イエスからマリアを託されたヨハネ(右)は、出来事を願っています。イエスを架けた百人隊長ロンギヌス(右端)は、出来事に驚き感動し、思わず、「まことにこの人は神の子であった」と回心の叫びを上げます。イエスの十字架での死は敗北ではなく、イエスが人類に救いをもたらした勝利の死なのです。十字架での死に打ち勝って救いを成し遂げたイエスの体は、復活を想わせる美しい体として描かれます。



3. 『復活』 マタイ 28.1-8 マルコ 16.1-8 ルカ 24.1-2 ヨハネ 20.1-13

キリストは円形の神の国マンドラから黄泉の国(下段)にまで降りて、黄泉の国の扉(下段X型)を蹴破り、闇にさまようアダム(中段左)とエバ(中段右)を死者の中から引き上げます。扉のXはキリストの頭文字で、キリストによって死が封印されたことを示すとも言われます。辺りには釘や鍵が飛び散り、すべての悪はこれらと共に打ち砕かれます。キリストが復活して黄泉の国の扉を蹴破ったことにより、闇にさまよう人々は神の国に引き上げられて神と結ばれ一致し、アダムに続くすべての人々に新しい命が与えられました。キリストは十字架での死に打ち勝ち復活し、人類の救いを成し遂げたのです。十字架での勝利の死を通してのみある復活です。天使達はこの勝利の十字架を捧げ賛美します(上段)。歴史上のすべての人々がこの復活の出来事に参入します。中段左、ダビデ王、ソロモン王、洗礼者ヨハネや弟子達、中段右、モーセや預言者や弟子達です。復活の出来事は、イエス・キリストの復活を通して、キリストにあやかり全人類にまったくの新しい命が与えられたという、救いの喜びの出来事なのです。

✦ 2号館1階カトリックセンター入口横(廊下)



4. 『昇天』 マルコ 16.15 16.19 ルカ 24.44-53

イエスはベタニアの近くまで弟子達を連れていき、彼らを祝福しながら彼らを離れて天に上げられます。天使達は天の門を開いてイエスを迎え入れます。マンドラで栄光のうちに父の右に座すイエスは、御言葉の巻物を左手に、聖霊を送るしぐさの右手で弟子達を祝福しています。教会の象徴である乙女でありながら神の母なる聖母マリアが、下段中央にまっすぐに立っています。マリアの後の白衣の二人の天使の羽は天に向けて、イエス・キリストとマリアを垂直に結びます。神の国(イエス・キリスト)と地上(聖母マリア)は神秘のうちに一つに結ばれていることを表します。左右の弟子達は二人の天使が指し示す方向を向いてはいますが、もはや天に上げられたイエスを見ることができません。マリアだけがその深い信仰を通して、はっきりと主イエス・キリストを見えています。人間の姿で天に上げられたイエス・キリストと、その人間性にしっかりと結ばれている教会(聖母マリア)と、その礎になった弟子達を表すイコンです。



5. 『聖霊降臨』 使徒行伝 2.1-21

聖書に、五旬節にみんなが集まっていると、舌のようなもの(聖霊)が炎のように分かれて集まった人々の上に留まったとあります。イコンでは、神の国(マンドラ)から出る聖霊が、椅子に座する十二使徒に降り注いでいます。半円形の椅子は使徒団の集まりである教会を表し、中心の空席には天に上げられた目には見えないキリストが臨在しています。下段、馬蹄形洞穴はこの世を表し、コスモスという名の王様が立っています。神との交わりである聖なる場、教会(椅子と使徒)はこの世から離れて一段と高く上げられて天に向かっていますが、一方、聖霊によって神の恵みをこの世に知らせる役目をも担い、この世にも開かれているのです。聖霊は教会からこの世に降り注ぎます(使徒の足元の光)。コスモスという名の王(この世)は布を広げて、聖霊に満たされた教会(使徒)から救いの御言葉を受け取ります。聖霊降臨によって父と子と聖霊の三位一体の神が啓示されました。教会は聖霊によってこの世を神の国に結ばせる重大な使命を負っているのです。

上南戦第60回記念大会

―スポーツを通じた交流の歴史―

上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会(以下、上南戦)は、第1回上智大学・南山大学定期戦として1960年6月25日、26日に南山大学で開催され、今年で60回目を迎えます。

上南戦は、カトリックという共通の基盤をもつ本学と南山大学(愛知県名古屋市)が、体育会の団体を中心として対抗試合を行い、両校の交流を深める対抗戦です。これまで一度も中止することなく、1年ごとに各校を会場として開催してきました。

企画展では、両校のスポーツを通じた交流の歴史を多数の写真を中心に展示してご紹介いたします。



展示期間

2019年6月24日(月)～9月18日(水)

平日 10:00～17:00 (予約不要・入場無料)

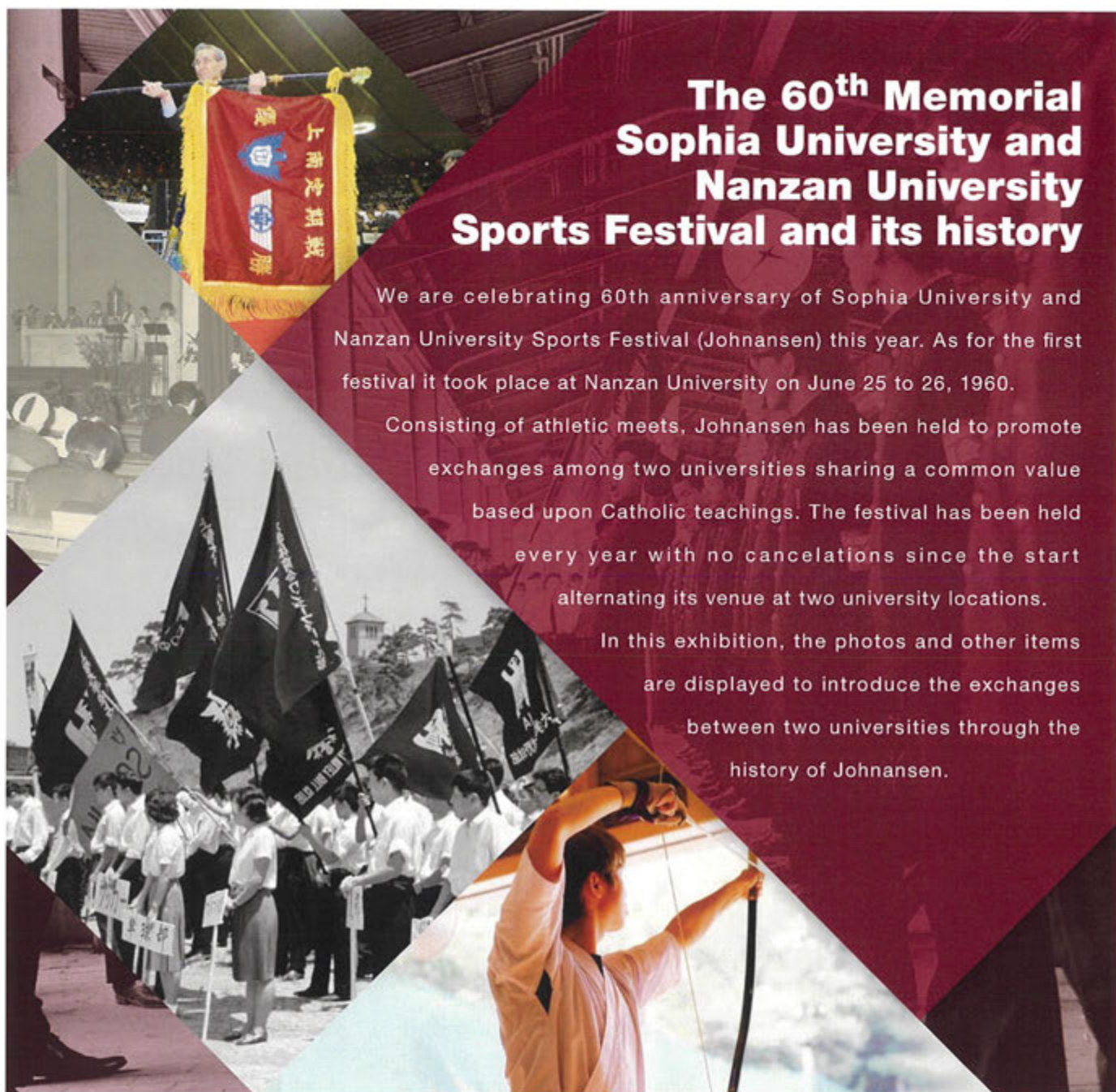
場 所

**上智大学四谷キャンパス (千代田区紀尾井町7-1)
6号館 (ソフィアタワー) 1階展示コーナー**

※駐車場のご用意はありません。

※6号館1階展示コーナーでは上智学院の歴史を紹介する常設展示や、大学の取り組みなどを紹介する展示も行っています。併せてご覧ください。

主催 上智大学 協力 南山学園 南山アーカイブズ
問い合わせ 上智大学 総務局広報グループ 電話 03-3238-3179



The 60th Memorial Sophia University and Nanzan University Sports Festival and its history

We are celebrating 60th anniversary of Sophia University and Nanzan University Sports Festival (Johnansen) this year. As for the first festival it took place at Nanzan University on June 25 to 26, 1960.

Consisting of athletic meets, Johnansen has been held to promote exchanges among two universities sharing a common value based upon Catholic teachings. The festival has been held every year with no cancelations since the start alternating its venue at two university locations.

In this exhibition, the photos and other items are displayed to introduce the exchanges between two universities through the history of Johnansen.



Schedule Monday, **June 24, 2019** ~ Wednesday, **September 18, 2019**
Open weekdays 10:00 am – 5:00 pm

* admission free, no reservation needed

Venue Exhibition space on the 1st floor of No.6 BLDG. (Yotsuya Campus)

* No parking available on campus

* Please visit the exhibit space on the first floor No.6 Bldg. to view our permanent exhibition introducing the history of Sophia School Corporation as well as its effort.

Organizer Sophia University **Cooperation** Nanzan Archives, Nanzan School Corporation

Contact Office of Public Relations, Sophia University **Phone** 03-3238-3179



国際部創設 70周年

今年は、現在の国際教養学部的前身に当たる国際部が1949年に創設されてから、70年目の節目にあたります。

国際部は、戦後まもなく、駐留米軍の兵士とその家族を主な対象として開講した夜間プログラムでした。当時日本はまだ戦後の貧困期にあり、国際部の様子は、日本社会一般とは、現代と比較にならないほど異なっていたことが想像できます。

国際教養学部は、この国際部を礎とした絶え間ない改良の果実であり、本展では、その70年の変遷を、さまざまな年代の資料から選りすぐってご紹介します。



展示期間

2019.9.20 (fri) ~

平日 10:00 ~ 17:00
(予約不要・入場無料)

場 所

上智大学四谷キャンパス(ソフィアタワー)
1階展示コーナー

※駐車場のご用意はありません。

※6号館1階展示コーナーでは上智大学の歴史を紹介する常設展示や、大学の取り組みなどを紹介する展示も行っています。併せてご覧ください。

共催 上智大学国際教養学部・上智大学史資料室

問い合わせ

上智大学総務局広報グループ 電話 03-3238-3179



International Division

70th
Anniversary

This year marks the 70th anniversary of the founding of the International Division, a pioneer of international education in Sophia University and Japan, and predecessor of the current Faculty of Liberal Arts (FLA).

The International Division was established shortly after the Second World War as an evening program mainly for soldiers of the U.S. occupation forces and their family members. One can only imagine how distinctive the cosmopolitan and well-equipped program appeared in Japanese society during the postwar recovery.

In this exhibit, we share some of the archived historical materials to remind us of the pioneering role of the International Division in introducing international higher education at Sophia University and in Japan.



SCHEDULE

Friday, September 20, 2019 ~

Open weekdays 10:00 am – 5:00 pm *admission free, no reservation needed

VENUE

Exhibition space on the 1st floor of No.6 BLDG

*No parking available on campus.

*Please also visit other exhibit spaces on the first floor of the Bldg. No.6 to view our permanent exhibition introducing the history of Sophia School Corporation as well as its effort.

Organizers : Faculty of Liberal Arts and Sophia University Archives

CONTACT

Public Relations Office, Sophia University Phone 03-3238-3179

教皇フランシスコ 来訪記念写真展

「ローマ教皇と上智大学」



期間：2019年11月14日（木）～12月20日（金）

会場：2号館1階エントランス



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY



PHOTO EXHIBITION COMMEMORATING THE VISIT OF POPE FRANCIS

THE POPE AND SOPHIA UNIVERSITY

SCHEDULE: THU., NOVEMBER 14 - FRI., DECEMBER 20, 2019
VENUE: ENTRANCE LOBBY, BLDG NO.2



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

未来の目に、焼きつけておきたい光景。

Sights That Should be Burnt into The Eyes of Future Generation.

IN COMMEMORATION OF POPE'S JAPAN VISIT
JOE O'DONNELL PHOTO EXHIBITION
THE FRUIT OF WAR
2019.11.15 FRI — 2019.11.29 FRI

ローマ教皇来日記念 ジョー・オダネル写真展
「戦争がもたらすもの」

会期：2019年11月15日[金]15時—11月29日[金]17時

平日9:00—17:00[土日は閉館] 会場：上智大学6号館1F 主催：上智大学/
NPO法人アース・アイデンティティー・プロジェクト 後援：TBSテレビ

協力：TBSスパークル/Kimiko O'Donnell/大原哲夫編集室/山崎真

資料参照：「トランクの中の日本」(小学館)

入場無料 お問い合わせ：info@earth-identity-project.com

Art Direction and Design by Prof. Hiromi Inayoshi

Joe O'Donnell



未来の目に、焼きつけておきたい光景。

ローマ教皇来日記念 ジョー・オダネル写真展 「戦争がもたらすもの」

2017年末、ローマ教皇から
異例のメッセージが
全世界の教会に配布されました。
「これが戦争のもたらすもの」
そのお言葉とともに一枚の写真が
添えられていました。

1945年、原爆投下直後の長崎で
米国の従軍カメラマン・
故オダネル氏が撮影したものです。
写っていたのは、弟の亡骸を
おんぶし焼き場の順番を待つ
少年でした。

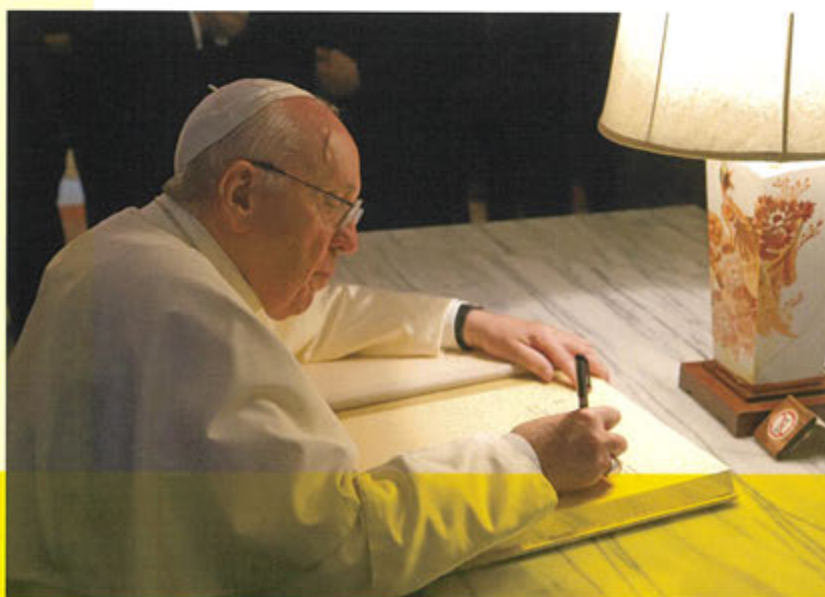
戦争のない平和な世の中は、
人々のためまぬ努力なしでは実現
できません。一枚の写真が
語る戦争の悲惨さを、未来を生きる
人々の目に焼き付けることも、
今を生きる私たちの努めです。

今回、ローマ教皇のご訪日に
際して、故オダネル氏の
ご遺族の協力を得て、オダネル氏
自ら現像し、額装した
オリジナルの写真を展示します。

Joe O'Donnell

A la Comunidad Universitaria de la Sophia University,
 con mi gratitud por su trabajo y hospitalidad, y pidiéndoles su
 apoyo por mí.
 Que Jesús en la eucaristía y la Virgen Santa los acompañe.
 Fraternalmente,
 Francisco
 28.11.2019

来校ありがとうございます、
 教皇フランシスコ、



会期	2020年3月17日(火)～ 平日 10:00～17:00 *予約不要・入場無料
場所	上智大学四谷キャンパス 6号館1階展示コーナー
問い合わせ	上智大学広報グループ 電話:03-3238-3179

写真展示：2020年3月25日(水)～ 2号館1階エントランス

- ・カトリック・イエズス会センター主催「若者へのメッセージ」
- ・きらきら星ネット主催「平和と環境についてのメッセージ」



上智大学
 SOPHIA UNIVERSITY

✠

A la Comunidad Universitaria de la Sophia University,
con mi gratitud por su trabajo y testimonio, y pidiéndoles que
resen por mí.

Que Jesús sea bendito y la Virgen Santa sea amada.
Fraternalmente,

Francisco
26.11.2019



◀ 教皇フランシスコからの贈り物 (純銀製レリーフ)

この作品は1989年にマリノ・マンドレージによってロストワックス鋳造法で制作されました。元となっているのは、イタリアのガエタ市にある聖堂のためにシビオネ・ブルゾーネが1582年に描いた「聖母マリアの無原罪の御宿り」という絵画です。



◀ 来日記念メダル

カトリック中央協議会から記念品としていただきました。教皇フランシスコ来日公式ロゴマークには、来日テーマ「すべてのいのちを守るため」という想いが込められています。



▲ バチカンから贈られたロザリオと記念カード

ロザリオのメダイには教皇フランシスコの紋章が彫られています。

◀ 教皇フランシスコの直筆サイン

A la Comunidad Universitaria de la Sophia University, con mi gratitud por su trabajo y testimonio, y pidiéndoles que resen por mí. Que Jesús les bendiga y la Virgen Santa les cuide. Fraternalmente, Francisco 26.11.2019

上智大学共同体へ みなさんの働きと証しに感謝しつつ、どうぞ私のために祈ってください。
イエス・キリストの祝福と、聖母マリアの守護が皆さんにありますように。
親愛なる兄弟の皆さんへ フランシスコ 2019年11月26日



◀ “教皇フランシスコからのメッセージ 「教智の座の大学」で学ぶ者へ”のプログラム

6号館101教室で開催された“教皇フランシスコからのメッセージ「教智の座の大学」で学ぶ者へ”のプログラム。式次第、教皇フランシスコの略歴、最近の言葉、来場者全員で歌った聖歌「あなたの平和の」が掲載されています。



▲ 来校記念しおりと記念カード

来校を記念して本学が作成しました。革製しおりの上部にはイエズス会の紋章、教皇フランシスコの紋章であるラテン語の“Miserando atque eligendo”（あわれみを受けそして選ばれた）が、下部には上智大学の校章と来校日が刻まれています。

▶ イエズス会日本管区本部に寄贈された 教皇フランシスコの回廊等の貴重本

教皇フランシスコが就任後に書かれた公文書（国勅、使徒的勅告、使徒的書簡など）のうち、主なものを教皇自ら管区長に手渡されました。



◀ 教皇フランシスコが来校の際に 使用した椅子

11月25日に都内で行われた「東日本大震災被災者との集い」で使用された椅子。翌26日に本学へ来校した時にも使用されました。カトリック中央協議会「POPE IN JAPAN 2019」から寄贈いただきました。



「創者を賛嘆し公正で誠実な人に」

本学での教皇フランシスコからのメッセージ全文は
上智大学公式ウェブサイトでご覧いただけます。

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/news/PR/20191129a.html>



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

POPE FRANCIS, THANK YOU FOR VISITING US AT SOPHIA



SESSION	Tuesday, March 17, 2020 ~ Open Weekdays 10:00 – 17:00 *Admission Free / No Reservation Needed
PLACE	Exhibition Space on the 1st floor of No.6 Bldg.
INFORMATION	Public Relations Office, Sophia University Phone:03-3238-3179



PHOTO EXHIBITION : WEDNESDAY, MARCH 25, 2020~ ENTRANCE OF NO.2 BLDG.

・"Message to the Youth" organized by Catholic Jesuit Center, Sophia School Corporation

・"Message of Peace and Ecology" organized by Twinkling Stars Net

✠
Cura

A la Comunidad Universitaria de la Sophia University,
con mi gratitud por su trabajo y testimonio, y pidiéndoles que resen por mí.
Que Jesús les bendiga y la Virgen Santa les cuide. Fraternalmente,

Francisco
26.11.2019

Francisco
26.11.2019

◀ Pope Francis's Autograph

A la Comunidad Universitaria de la Sophia University,
con mi gratitud por su trabajo y testimonio, y pidiéndoles que resen por mí.
Que Jesús les bendiga y la Virgen Santa les cuide. Fraternalmente,
Francisco 26.11.2019

To the University Community of Sophia University,
With my gratitude for your work and witness, and asking you to please pray for me.
May Jesus bless you and may the Holy Virgin take care of you. Fraternally,
Francisco November 26, 2019



◀ Madonna in silver, a gift from the Pope.

This metal casting work was created by Mario Mandolesi in 1989 using a lost-wax process inspired by the famous painting "Immaculate Conception of Mary" that was painted by Scipione Pulzone in 1582 for the cathedral in Gaeta, Italy.



◀ Program of the special lecture "Pope Francis's Message to Students at Universitas Sedes Sapientiae."

Program of "Pope Francis's Message to Students at Universitas Sedes Sapientiae" with the biography of the Pope and his recent words, the order of the ceremony and lyrics of the hymn "Channel of Peace."



◀ Commemorative Medal

Presented by the Catholic Bishops' Conference of Japan. The official logo represents the theme of the Pope's visit "Protect All Life."



▲ Bookmark and a card made for commemoration of the Pope's visit to Sophia University

This has Sophia's original design commemorating the Pope's visit. On the top are the Jesuit insignia and the Pope's episcopal motto "Misericordia atque eligendo" [By (God's) mercy and choice] in Latin. On the bottom are Sophia's insignia and the date of the Pope's visit.



▲ A rosary and a card received from the Vatican

The insignia of Pope Francis is engraved on the medal of the rosary.

► Encyclicals and other important documents of Pope Francis donated to the Provincial of the Japanese Province of the Society of Jesus

Selected Papal Documents (Encyclicals, Apostolic Exhortations, Apostolic Letters) that were handed to the Provincial of the Japanese Province of the Society of Jesus by Pope Francis.



◀ The Chair used by the Pope on this visit to Sophia University

This chair was used by the Pope at "the Meeting with Victims of the Triple Disaster" on November 25. It was also used on November 26 when the Pope visited Sophia. It was presented by "POPE IN JAPAN 2019" of the Catholic Bishops' Conference of Japan.



"To just and sincere people who protect the weak"

This message of the Pope at Sophia can be viewed on the Sophia University official website.

<https://www.sophia.ac.jp/eng/news/2019/news1211adressofpope.html>

企画展示「新カトリック大事『展』」同時開催 クロスワードゲーム

シン・カトリック大事典補完計画！！

時に西暦 2021 年。時代は激動の渦に飲み込まれていた。混乱きわまる社会情勢、有象無象の情報氾濫。人類は進むべき方向を見失いつつあった。

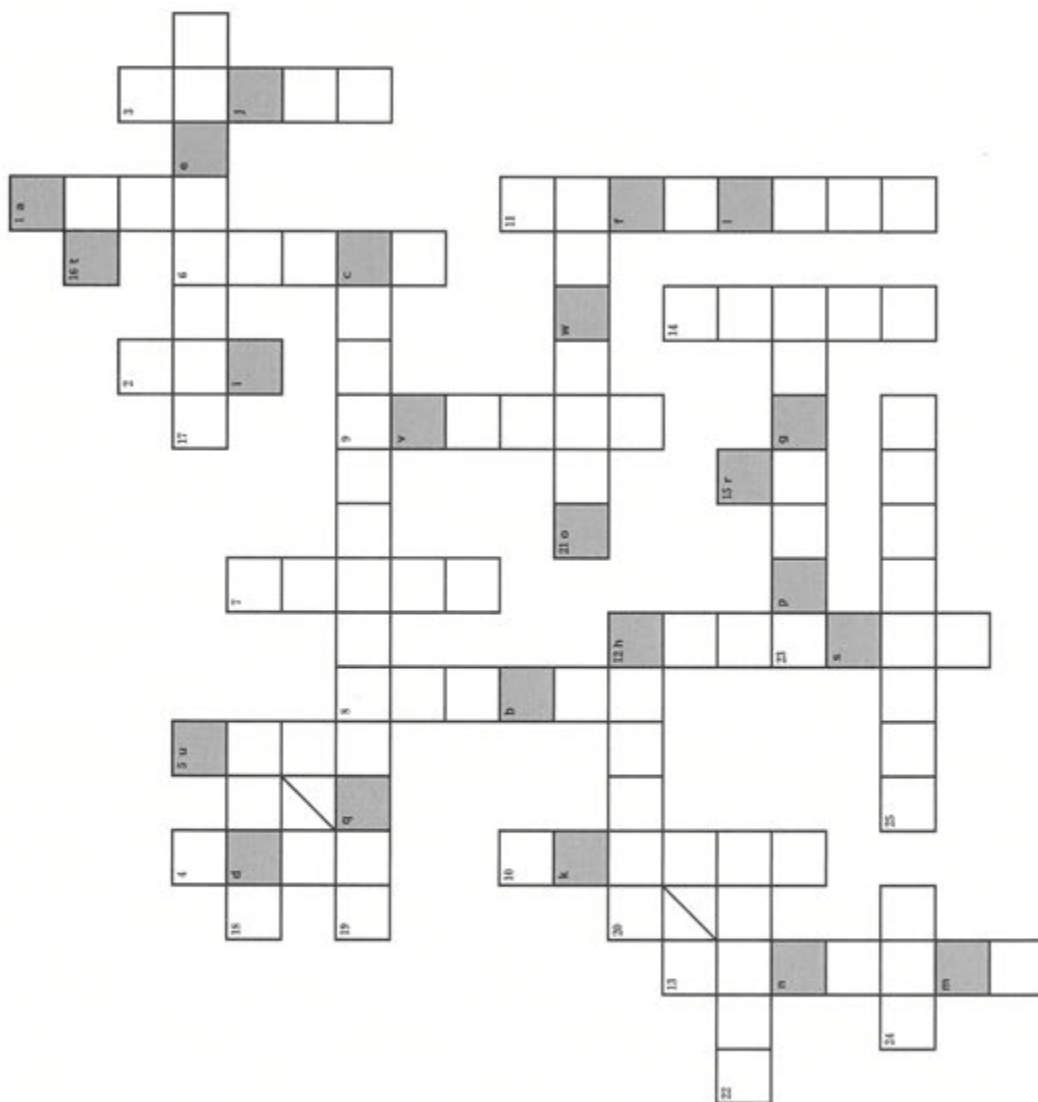
今こそ、新たな百科事典『シン・カトリック大事典』が必要だ！
6号館と中央図書館の展示を見ながらクロswordと暗号を解き、新たな時代を目指すのだ！

【タテの鍵】

1. 入稿用の指定を加えるために行われることもあった。
2. 1962年10月、カトリック教会刷新のために○○○パカン公会議が始まった。
3. 新カトリック大辞典で、27%を占める分野。
4. 新カトリック大辞典で、9.4%を占める分野。
5. 2017年4月、KOD内で○○○○契約開始。
6. 第2代編集長。高柳○○○○。
7. 「神学」の項目を執筆した、国際的な神学者。
8. 新カトリック大辞典で、0.7%を占める分野。
9. 上智大学の設立母体でもある、世界的なカトリック男子修道会。
10. 第1巻刊行時に、「使徒的祝福」を送った教皇。1981年に来日したこともある。○○○・○○○2世。
11. 8月28日が祝日の聖人。司教。神父。
12. 16世紀(タテ9)の宣教師たちは、○○○○○○○のかけ橋となった。
13. 新カトリック大辞典の出版社。KODも彼らのおかげ。
14. 初代編集長。ペトロ・○○○○○。
15. 「新カトリック大辞典とは」は、大事典の「○○がき」からの引用。

【三〇の鍵】

16. ラテン語で Amor、または Caritas。
17. K00 の D。
18. 新カトリック大事典全 4 巻刊行後、2010 年 9 月に発行された巻。
19. 高柳先生が 1997 年から 5 年間の委員を務めたバチカンの組織。
20. 第 4 巻刊行時のローマ教皇。○○○○○○16 世。
21. アクアヴィヴァ神父が務めた役職。
22. 1940 年から 1960 年に出版されたカトリック大辞典の出版社。
23. 図書館で展示中の原稿で、日本人作家。
24. カトリック大辞典の出版を要請したローマ教皇。○○○11 世。
25. 「十戒」の項目を執筆した神父。ドイツ人。



(解答欄)

上を見上げて、叡智の道しるべをたどり、
「

a	b	c
---	---	---

を

d	e	f	g	h	i	e	j
---	---	---	---	---	---	---	---

」を見つけ出せ。

この

k	l	m	e	c	j	n	m
---	---	---	---	---	---	---	---

の

o	p	q	r
---	---	---	---

で、
上智で

r	e	s
---	---	---

、

t	e	u
---	---	---

が

v	c	w
---	---	---

だ！

(メモ)

このクロスワードは、6号館と中央図書館の展示を見ないと、解くことができません。
中央図書館の展示は10月22日までです。
解答欄の暗号をより深く理解するには、6号館の常設展もご覧いただく必要があります。



聖イグナチオ・デ・ロヨラ (ジェズ教会所蔵)
St. Ignatius of Loyola (Church of the Gesù, Rome)

聖イグナチオの霊的な遺産 The Spiritual Legacy of St. Ignatius

- 【展示期間】 2021年10月7日(木)～ 予約不要・入場無料
【場所】 上智大学四谷キャンパス 6号館1階展示コーナー
【SCHEDULE】 Thursday, October 7, 2021 ~ Admission Free / No reservation Needed
【VENUE】 Exhibition Space on the 1st floor of Bldg. No.6



聖フランシスコ・ザビエル像 (1506-1552) Portrait of St. Francis Xavier (1506-1552)



所蔵先：神戸市博物館
Photo: Kobe City Museum/ DNPartcom

本図は、イエズス会の創立会員であり、日本にキリスト教を伝えた宣教師、聖フランシスコ・ザビエルを描いた礼拝画である。キリシタン弾圧の間隠されており、1920年に発見された。本図の中で、聖ザビエルは光輪をつけ、手に神への篤い信仰を象徴する燃える心臓を抱き、十字架にはりつけにされたイエスを見上げる。口からは「主よ、充分です。十分に満たされています」(SATIS EST DÑE SATIS EST) と感謝の言葉を発している。制作期は、「S.P.」(Sanctus Pater) の文字や光輪をつけていることから、おそらく聖ザビエルの列聖以前とされている。

This picture illustrates the adoration of St. Francis Xavier, a founding member of the Society of Jesus and a missionary who introduced Christianity into Japan. It was concealed during the Christian oppression, and located in 1920. In this painting, St. Francis Xavier is depicted having a halo. In his hand is visible a flaming heart, signifying his intense faith in God, and he gazes up at the crucified Jesus. From his mouth issue forth the words, "It is enough, O Lord, it is enough," (SATIS EST DÑE SATIS EST), words indicating his gratitude. Judging by the halo and the letters 'S.P.' (Sanctus Pater), it is probably a work predating his canonization in 1622.



紙本著色聖母十五玄義・聖体秘跡図 Painting featuring the words "The Fifteen Mysteries of the Virgin Mary, Mother of God - The Eucharistic Adoration"

本図推定制作年代は17世紀初頭で、キリシタン弾圧の間隠されており、1930年に発見された。下段、殉教者2人と、聖イグナチオ、聖ザビエルの4聖人は聖体を礼拝している。

また、イグナチオ及びザビエルは聖人を示す「S」だけでなく、「P」が書かれ、「Sanctus Pater - 聖なる父」と呼ばれており、これを列聖以前の制作である証拠とする説がある。2022年3月12日は、彼らが列聖された400周年記念日である。

It had been hidden during the persecution of Christian and discovered in 1930, and is now preserved in the University of Kyoto. In the row below are seen St. Ignatius of Loyola and St. Francis Xavier adoring the Blessed Sacrament, along with two other martyrs.

Referring to St. Ignatius and St. Francis Xavier as "S.P." (Sanctus Pater), it predates their canonization in 1622. The 400th anniversary of their canonization is celebrated on coming March 12.



所蔵：
京都大学総合博物館
The Kyoto University Museum



「スピリツアル修行」(レプリカ版)

Spiritual xuguio (Replica version)



1607年にイエズス会の宣教師が長崎で出版した観想書であり、聖イグナチオの『靈操』に影響を及ぼしたと言われている。この本は、ロザリオの15神秘、4つの福音書からまとめられ主の受難の簡潔な説明、修道の誓願や美德などの様々なテーマについての黙想を集めたものである。

著者：ガスパル・ロアルテ

ペトロ・ゴメス

It was published in 1607 at Nagasaki. It is a guidebook for retreats, compiled by selecting key issues from *Spiritual Exercises* of St. Ignatius. Besides that, it consists some meditations on various subjects, such as the fifteen Mysteries of the Rosary, a brief account of the Passion of our God which compiled from the four Gospels, the religious vows, and the virtues...

Authors: Gaspar Loarte and Pedro Gómez



「靈操」(レプリカ版)

The Spiritual Exercises (Replica version)



『靈操』は、聖イグナチオの重要な霊的遺産の一つである。日本では、1596年長崎でイエズス会の宣教師はラテン語で、聖イグナチオの『靈操』を出版した。本書に書いているように、おそらくこれは山口のイエズス会の共同体に所蔵されていた。(この共同体は1604年、弾圧を受けて破壊されてしまった。)

Spiritual Exercises is one of the most important spiritual legacies of St. Ignatius. In Japan, the *Spiritual Exercises* of St. Ignatius was published in Latin at Nagasaki, in 1596. Judging by a small note within the book, it was perhaps owned by the Jesuit community at Yamaguchi. (That community was suppressed and terminated in 1604).



「CONTEMPTVS munji」(複製版)

CONTEMPTVS munji (Duplicate version)



聖イグナチオが愛読し、『靈操』の源泉の一つとなった資料である。世俗を離れ、イエスの道に従う道を教えるラテン語の版であり、1596年に長崎で出版された。

この国字本の『こんてむつすむんぢ』は、信頼のおける史料によると、1602年に長崎で印刷された。2002年、これらをもとに、翻字本『コンテムツスムンヂ』を尾原悟神父(イエズス会)が出版した。

著者：トーマス・ア・ケンピス

This is a book St. Ignatius loved to read, and it also became a wellspring of his *Spiritual Exercises*. It is a Latin version published in 1596 at Nagasaki. It urges us to withdraw from the world and follow the path of Christ.

Based on the Latin version and a version in the native language (called *Contemutsumunji*), which according to reliable sources was printed in 1602 at Nagasaki, Fr. Obara Satoru of the Society of Jesus published in 2002 a transliterated work entitled "*Contemptus Mundi*".

Author: Thomas à Kempis



Sophia School Corporation Catholic Jesuit Center

上智学院 カトリック・イエズス会センター

TEL

03-3238-4161

E-mail

catholic-co@sophia.ac.jp

企画展

長崎から世界へ「平和を」 被爆医師 永井隆と妻 緑 からのメッセージ

ウクライナでの戦争が長期化する中、今世界中で「平和」を求める心からの叫びが広がっています。核兵器使用の脅威が高まる中、核兵器廃絶の願いもより切実になっています。

長崎の原爆で妻を失い、被爆者たちのために献身的な救助活動を行い、数多くの著作を残した医学者、永井隆。彼は、原子爆弾で被爆する前すでに、レントゲン治療での被曝により白血病となり、余命3年を宣告されていました。放射線医学の専門医として、彼は原爆の人体に与える影響の恐ろしさを見抜き、いち早く世に訴えました。



ホフマン像の前で、左から3人目が誠一氏
提供：永井隆記念館

「平和を」の色紙を1000枚したため、人々に送ったのは、恒久平和を願う一心からでした。これからの戦争が最終的には核兵器を用いる戦争となることを予感した隆は、「あらゆる戦争を止めよ」というメッセージを発信し続けました。

戦後、彼の著書は皆ベストセラーとなり、主著『長崎の鐘』が映画化されるなど、多くの関心を集めました。今、彼とその妻緑の生き方とメッセージに世界中の人々が心を動かされ、再び注目を集めています。イタリアで開催された永井隆展には、2万人の人が訪れ、ニューヨークでもシンポジウムが開催されました。

永井夫妻の長男、誠一氏は本学新聞学科の卒業生です。この絆を象徴するのが、北門外の右横に植樹された「永井千本桜」の2世です。"For Others, with Others"の精神に貫かれた夫妻の生涯をご紹介します。

なお展示パネルは、永井隆記念館(長崎市館長 永井徳三郎氏)のご厚意によりご提供頂いたものです。

(展示パネル「ごあいさつ」より)

主催 上智学院カトリック・イエズス会センター

会期 第1回 2023年6月1日～7月27日(予定) / 第2回 2023年8月1日～9月27日(予定)

場所 上智大学四谷キャンパス6号館1階展示スペース(アクセスガイドは裏面をご覧ください)

問合せ カトリック・イエズス会センター Tel: 03-3238-4161

国連Weeksシンポジウムのお知らせ

NAGASAKIから世界へ「平和を」被爆医師 永井隆と妻 緑 からのメッセージ

※対面とオンラインのハイフレックス形式/右のQRコードからそれぞれ申し込み可能

日時: 2023年6月3日(土) 15:00～17:00

場所: 上智大学四谷キャンパス2号館17階1702会議室(来場参加)、オンライン

言語: 日英(通訳音声はZoom視聴時に限り利用可能。会場でスマートフォン等から音声を聞く場合は、必ずイヤフォンを持参してください。)

対象: 学生・一般(無料・要事前申込)

共催: 上智学院カトリック・イエズス会センター 後援: 上智大学神学部

パネルディスカッション

- ・ガブリエレ・ディ・コミテ
(アストラゼネカ日本法人 メディカルディレクター / 永井隆と緑の友の会会長)
- ・パウラ・マレンコ
(医師、イタリア「医学と人間」協会副会長 / 永井隆と緑の友の会副会長)
- ・チャド・ディール(バージニア大学インストラクショナルデザイナー / 日本史家)
- ・片山はるひ(上智大学神学部教授)

【参加申込】

来場参加

オンライン参加



パネル展同時開催のお知らせ

場所: 2号館1階 エントランス

期間: 2023年6月1日～6月29日

"Peace to the World from Nagasaki!"

A Message from Hibakusha Dr. Takashi Nagai and his Wife, Midori.

As the war in Ukraine continues to drag on, heartfelt cries for "peace" are heard throughout the world. With a rising threat that nuclear weapon may be used, the desire for nuclear disarmament has also grown. After losing his wife in the Nagasaki atomic bombing, a medical scholar, Dr. Takashi Nagai, devoted himself to the rescue and care of irradiated victims and wrote numerous works. Even before being exposed to the atomic bomb, he had been diagnosed with leukemia due to radiation exposure from X-ray treatments and was given only three years to live. As a specialist in radiation medicine, he quickly recognized the horrific impact of the atomic bomb on the human body and was swift to alert the world.



Makoto is the third from the left in front of the statue of Hoffmann.

He sent a thousand pieces of colored paper, each with the word "peace," to people everywhere, a sign of his deep desire for perpetual peace. Foreseeing that future wars may ultimately involve nuclear weapons, Nagai consistently broadcast the message, "stop all wars."

After the war, his publications became bestsellers. His main work, "The Bells of Nagasaki," was even adapted into a film. The life and message of Dr. Nagai and his wife Midori are drawing renewed attention today. An exhibition about Takashi Nagai held in Italy saw 20,000 visitors, and a symposium was also held in New York.

The Nagais' eldest son, Makoto, is a graduate of our university's Department of Journalism. A second generation of the "Nagai Thousand Cherry Trees," planted on the right side outside of the north gate, symbolizes this connection. We introduce the life of the couple, which was underpinned by the spirit of "For Others, with Others".

The panels on display were kindly provided by the Nagai Takashi Memorial Museum Nagasaki (Director: Mr. Tokusaburo Nagai).

Sophia School Corporation Catholic Jesuit Center

*Photo: Nagai Takashi Memorial Museum Nagasaki



SCHEDULE

The 1st period :
Thursday, June 1 ~ Thursday, July 27, 2023

The 2nd period :
Tuesday, Aug. 1 ~ Wednesday, Sep. 27, 2023

VENUE

Exhibition space on the 1st floor of No. 6 Bldg.
※No parking available on campus

CONTACT

The Catholic Jesuit Center, Sophia School Corporation
Phone 03-3238-4161



人間 アルペ神父に問う Men for Others 展

Men for Others exhibition,
asking the Human Fr. Arrupe

期 間
(Period)

2024.1.22 Mon ~
平日 (Weekdays) 10:00 ~ 17:00

場 所
(Place)

四谷キャンパス6号館1階展示コーナー3
(Yotsuya Campus Bldg. 6 Exhibition Space 3)

主 催
(Organizer)

カトリック・イエズス会センター
(Catholic Jesuit Center)
Email: catholic-co@sophia.ac.jp

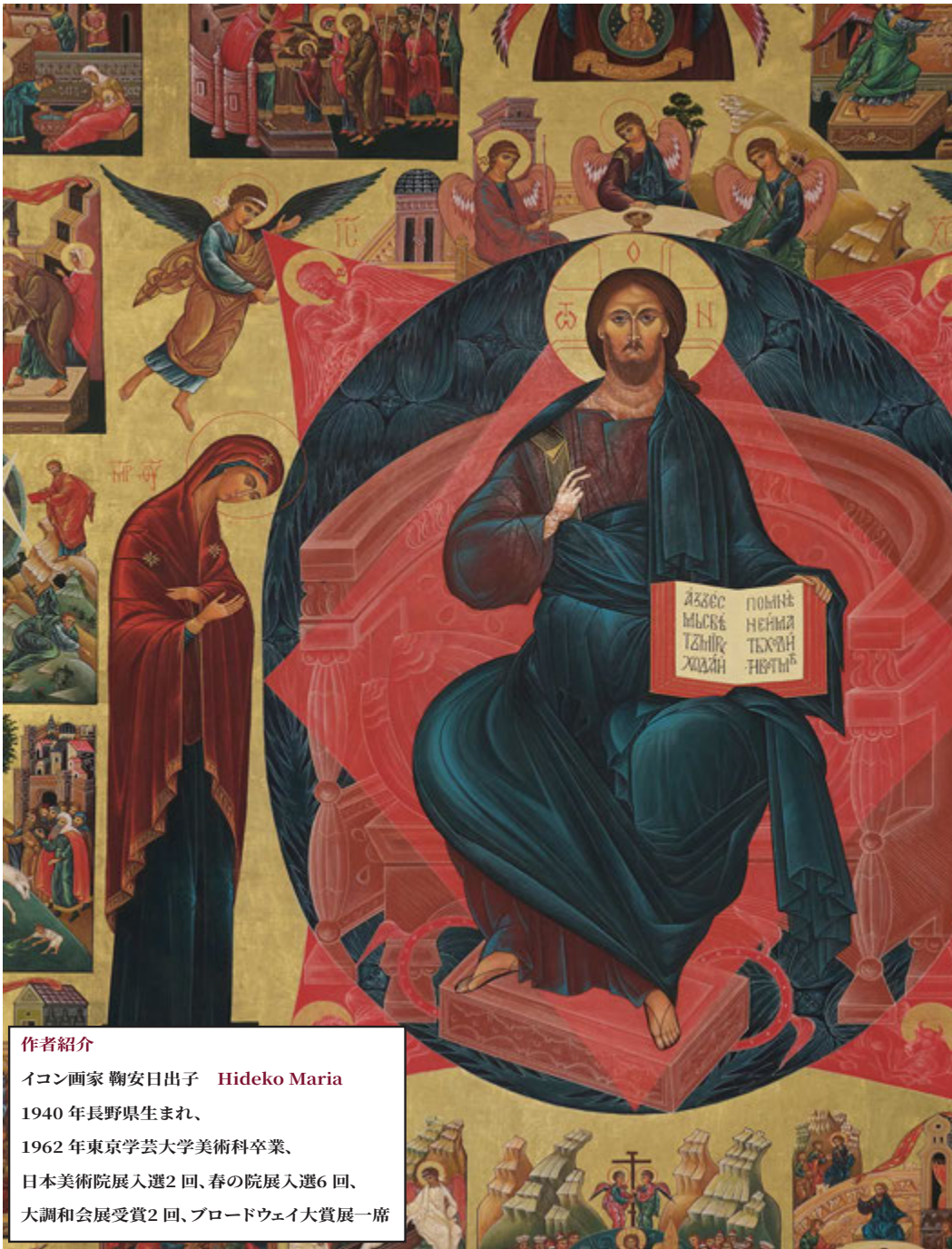




上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

鞠安日出子 イコン・日本画展

—生きる力—



作者紹介

イコン画家 鞠安日出子 Hideko Maria
1940 年長野県生まれ、
1962 年東京学芸大学美術科卒業、
日本美術院展入選2回、春の院展入選6回、
大調和会展受賞2回、ブロードウェイ大賞展一席

HIDEKO MARIA EXHIBITION OF IKONS AND JAPANESE STYLE PAINTINGS —THE WILL TO LIVE—

2024

日 時 9/25 WED. - 10/18 FRI.

10:00 - 17:00 ※平日のみ開催

講演会 鞠安日出子 講演会 9/25 WED. 17:30 - 18:30
テーマ「生きる力：天と地の狭間を生きる」

入場無料・申込不要

場所：上智大学カトリック・イエズス会センター2号館1階

場 所 上智学院カトリック・イエズス会センター・2号館1階ロビー & 6号館1階
Sophia School Corporation Catholic Jesuit Center / Entrance Hall Bldg. #2 & Bldg. #6



主 催：上智学院カトリック・イエズス会センター
共 催：上智学院ソフィア・アーカイブズ
お 問 い 合 せ：catholic-co@sophia.ac.jp 03-3238-4161



企画展

カンボジアでのソフィア・ミッション (1979年～2023年)

難民救済活動からアンコール・ワット西参道完成まで

The Sophia Mission in Cambodia (1979 – 2023)

From Efforts at Refugee Relief to the Completion of the Angkor Wat Western Causeway



会 期：2024年10月22日～（終了時期未定）
場 所：上智大学6号館（ソフィアタワー）1階展示スペース

主 催：上智大学アジア人材養成研究センター

アクセス：JR中央線 四ツ谷駅／東京メトロ丸の内線・南北線 四ツ谷駅から徒歩3分

アクセスとキャンパスマップは
こちらでご確認
いただけます→



お問い合わせ・ご意見・
ご感想など
はこちら→



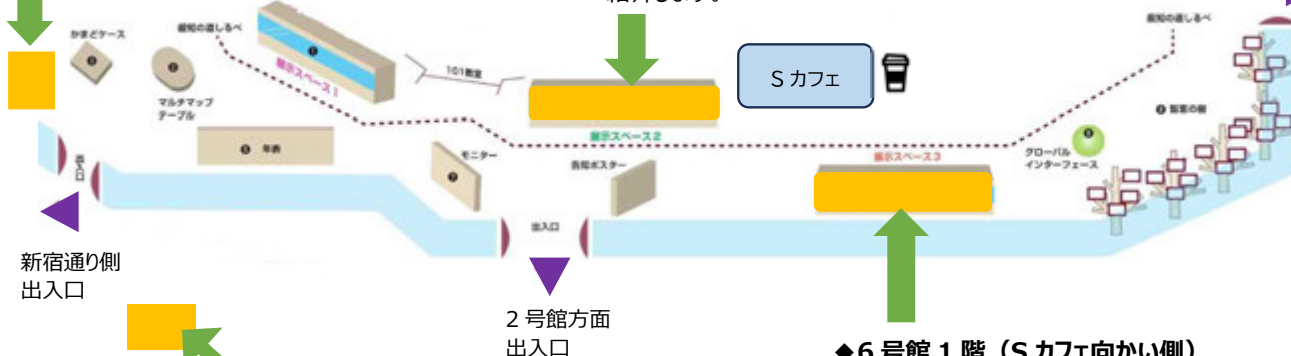
企画展 **カンボジアでのソフィア・ミッション**
6号館 1階 展示場所のご案内

◆6号館 1階（新宿通り沿い）
アンコール・ワット模型（スケール 1：100）



◆6号館 1階（廊下中央） 展示スペース 2
「難民救済活動からアンコール・ワット西参道完成まで」
33 年間におよぶ西参道修復工事完成までの道のりを
紹介します。

東門方面
出入口



新宿通り側
出入口

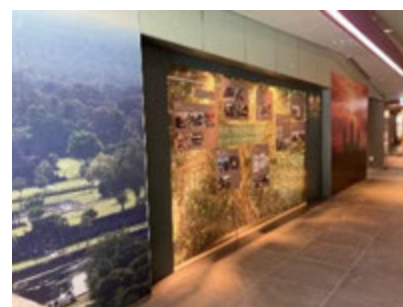
北門
（新宿通り、JR 四ッ谷駅方面）

7
号館



◆7号館横 アンコール・ワットの石材
※工事中でご覧いただけない場合があります
2017 年に 6 号館（ソフィアタワー）の竣工
を記念して「石積み伝統技法」の公開実演の
ため、アンコール・ワットから運ばれてきた石材
です。

◆6号館 1階（S カフェ向かい側）
展示スペース 3 「世界をつなぐひとになれ」
支援の輪や各校の取り組みを紹介します。



**西参道完成記念映像（石澤良昭所長による保存官養成プロジェクトと
アンコール・ワット西参道修復工事についての解説あり）はこちらの QR コード
からご覧いただくことができます。**

映像：ラオ レイ（Rey Lao）



企画展

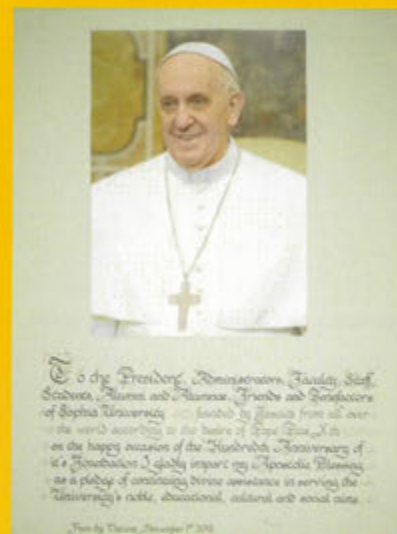
(6号館1階展示スペース3)

「ローマ教皇と上智大学」

The Pope and Sophia University

会 期：2019年11月25日（月）～

時 間：平日10：00～17：00（予約不要・入場無料）



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

教皇フランシスコ からのメッセージ

「叡智の座の大学」で学ぶ者へ



2019年11月26日(火)

9:40~10:25 6号館101教室

当日は学内各所および上智大学公式YouTubeチャンネルでライブ配信予定

本会場の聴講申し込みは終了しています。

上智大学

写真展「ローマ教皇と上智大学」

11/14~12/20

2号館1階エントランスにて開催



POPE FRANCIS' MESSAGE

TO STUDENTS AT
UNIVERSITAS SEDIS SAPIENTIAE

TUESDAY, NOVEMBER 26

9:40AM~10:25AM ROOM101, BLDG-NO.6

Registration for this event has been closed.

This event will be broadcasted live and can be viewed at several places on campus. A live stream of this event will be also available through Sophia University official YouTube channel.

PHOTO
EXHIBITION

"THE POPE AND
SOPHIA UNIVERSITY"
@ ENTRANCE LOBBY,
BLDG-NO.2

SOPHIA UNIVERSITY

上智大学新聞学科と 日本の新聞学

Sophia University Department of Journalism
and the Study of Journalism in Japan

新聞学科の誕生

LAUNCH OF THE DEPARTMENT OF JOURNALISM

「上智大学のヘルマン・ホフマン学長が、開所したばかりの最大の研究室にいられた。ホフマン学長は、年々『毎日新聞』のダスター氏をたずねて私の宅にいられたこともあり、チューリヒ大学を参考に小野（略）関もなく社会学出身のクラウス神父を推薦して、新聞学科をつくってもらいたいという正式の相談があった」（小野青雄『新聞研究五十年』毎日新聞社、1971）

審議院に重点をおいたものでした。歴史や新聞学の理論は小野が担当し、興学として新聞社から記者や各部署の担当者を選任に任せています。夜間3年制、定員50名で募集したところ、2倍以上の応募があり、初年度は40名の学生を受け入れたといえます（卒業生14名）。戦後は学部改革で文学部新聞学科となり、コミュニケーション理論、政治学、法学、社会学、社会心理学など幅広い分野に教養更新しながら、理論と実践を兼ね備えた教育・研究組織として今日に至っています。



新聞学科開設直後 中谷が小野青雄氏（1972年）
in the Memory of the Department of Journalism, Sophia University, 1972

番組制作の授業

TV PROGRAM PRODUCTION

03

新聞学科ではテレビセンターを1分間の番組をつくるフル活用し、「演習I（メディアリテラシー）」をはじめとして、3年生以降に履修できる「テレビ制作I」「テレビ制作II」などの実践科目で、学生たちが番組制作に取り組んでいます。ニュース番組、教育番組、ドラマ、ドキュメンタリーなど、テレビ番組を取材・出演・制作する立場で「メディアになる」を体験します。制作された番組は「地方の時代」読書祭、アジア国際青少年映画祭など数々のコンクールで評価されるなど、全国の大学でも常にトップレベルの水準を維持し、実践授業は卒業後にメディアの世界で活躍する人たしを生出している背景になっています。

（編集：新聞学科4年 YS0111 KEI）



テレビセンター

ABOUT THE TV CENTER



旧4号館テレビセンターの撮影風景
（テレビセンターが設置された旧4号館（1971年）
撮影：中谷の新聞学科開設直後の写真。中谷の新聞学科開設直後の写真。中谷の新聞学科開設直後の写真。）

1966年、ホセ・デ・ベ（のち番組制作）」が新たな神父の指導により、な学科科目に加わりました。旧3号館5階にテレビセンターがオープンしました。開所直後、「演習I」・「演習II」・「演習III」（現在は「演習I」・「演習II」・「演習III」）が初年度の必修になりました。2002年にデジタル化へと大改革を行い、2005年には現在の2号館竣工とともに移転、2009年からはHD（高画質、high definition）に対応した機材を導入し、上記のほかにも学芸員課程の「演習教育」の授業にも使われています。

神父は、開所と同時に教鞭を執り、「テレビ番組制作

展示期間：
2022年12月14日(水)～

展示場所：
上智大学四谷キャンパス
6号館1階展示コーナー

企画：文学部新聞学科 — 新聞学科創設90周年記念 —
問い合わせ：ソフィア・アーカイブズ
Tel.03 (3238) 3294 平日9:00～11:30、12:30～17:00

フランスにおける 「服」と「政治」

“Clothing” and “Politics” in France

展 示 期 間：2022年12月14日（水）～

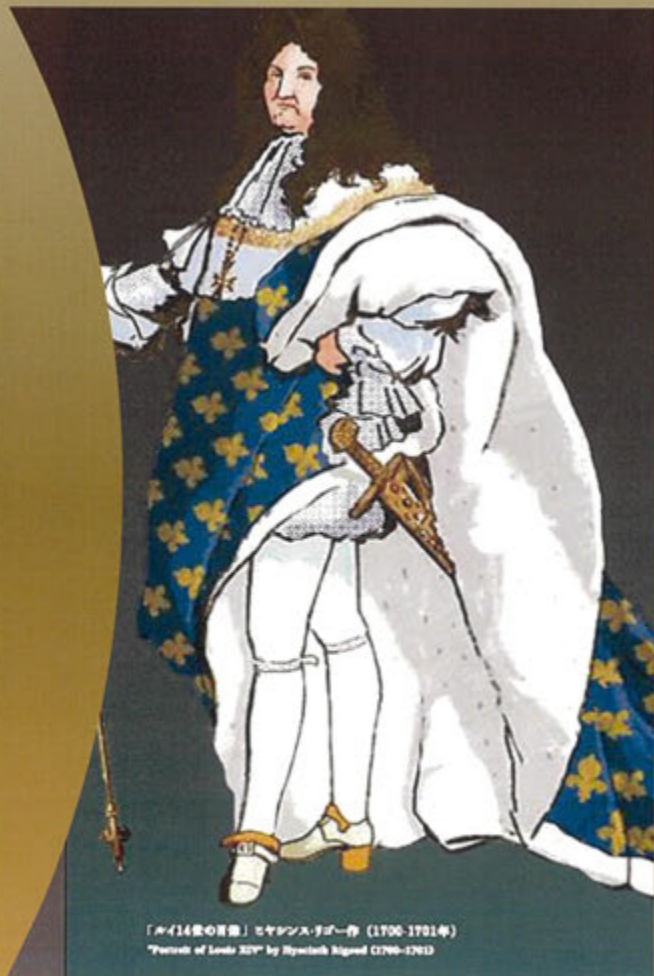
展 示 場 所：上智大学四谷キャンパス 6号館1階展示コーナー

企 画：外国語学部フランス語学科 サルブランゼミ

問い合わせ：ソフィア・アーカイブズ

Tel. 03 (3238) 3294

平日9:00～11:30、12:30～17:00



上智の「鷲」とともに—大学の理想と「校章」—

WITH THE SOPHIA EAGLE :

UNIVERSITY IDEALS AND THE SCHOOL EMBLEM

現在校章などで使用している本学のシンボルは、羽ばたく「鷲」がモチーフとなっています。本展示では、ソフィア・アーカイブズが所蔵する資料の中から、えりすぐりの上智の「鷲」を展示いたします。「鷲」にまつわるエピソードもお楽しみください。

The symbol of the University, currently used in the school emblem, depicts an eagle. This exhibition will feature selected Sophia eagle designs from the Sophia Archives' collection. Please also enjoy the episodes related to the eagle.



展示期間(Period):

2023. 10.13 Fri ~

平日(Weekdays) 10:00~17:00

予約不要(No Reservations Required) 入場無料(Free)

場所(Place):

四谷キャンパス6号館1階展示コーナー2
(Yotsuya Campus Bldg. 6 Exhibition Space 2)

企画および問い合わせ (Planning and Inquiries):

上智学院ソフィア・アーカイブズ

(Sophia Archives, Sophia School Corporation)

Tel.: 03(3238)3294

平日(Weekdays) 9:00~11:30, 12:30~17:00

上智大学創立110周年記念



他者のために、他者とともに
上智大学短期大学部サービスラーニングの挑戦

For Others, With Others

Taking up the Challenge with Sophia University Junior College
Division Service - Learning

展示期間 (Period)

2023. **10.13** Fri~

平日 (Weekdays) 10:00~17:00

予約不要 (No Reservations Required) 入場無料 (Free)

場所 (Place)

上智大学四谷キャンパス6号館1階展示コーナー3

(Yotsuya Campus Bldg. 6 Exhibition Space 3)

問い合わせ (Inquiries)

上智学院ソフィア・アーカイブズ

(Sophia Archives, Sophia School Corporation)

Tel.: 03(3238)3294 mail: sophia-archives-co@sophia.ac.jp

平日 (Weekdays) 9:00~11:30、12:30~17:00

主催 (Sponsorship)

上智大学短期大学部 (Sophia University Junior College Division)



人間 アルペ神父に問う Men for Others 展

Men for Others exhibition,
asking the Human Fr. Arrupe

期 間
(Period)

2024.1.22 Mon ~
平日(Weekdays) 10:00~17:00

場 所
(Place)

四谷キャンパス6号館1階展示コーナー3
(Yotsuya Campus Bldg. 6 Exhibition Space 3)

主 催
(Organizer)

カトリック・イエズス会センター
(Catholic Jesuit Center)
Email: catholic-co@sophia.ac.jp



A poster for a Christmas concert. The background is a dark, festive scene with a large, glowing red Christmas ornament hanging from a pine branch. A grand piano is visible in the background, and a white, stylized Christmas tree is in the foreground. Musical notes are floating around the piano. The text is in a mix of English and Japanese, with a warm, holiday-themed color palette of reds, greens, and golds.

Xmas Concert

ベーゼンドルファーが、90年の時を超えて甦るー

- ・ドビュッシー/ベルガマスク組曲より『月の光』・(高槌満帆)
- ・坂本龍一/戦場のメリークリスマス (坂本万里江)
- ・J.S.バッハ/カンタータ147番より『主よ、人の望みの喜びよ』
- ・ピエトロ・マスカーニ/カヴァレリア・ルスティカーナ間奏曲 (太田みなみ)

曲目及び演奏者は予告なく変更となる場合がございます。

12.24 日

開場 14:30 開演 15:00 閉演 15:30 予定
会場 上智大学四谷キャンパス
6号館1階 エントランス (麹町大通り側)

入場無料

事前申込不要

主催：学生有志
協力：ソフィア・アーカイブズ
カトリック・イエズス会センター
問い合わせ先: bosendorferpiano@outlook.jp

SOPHIA
100TH
ANNIVERSARY

主催学生の声

皆様この度はXmas concertにお越しいただきまして誠にありがとうございます。
沢山の方のお力添えがあってこの企画を実現することができました。ベーゼンドル
ファーの奏でる音色に浸りながら素敵なクリスマスイブを共に過ごしましょう。

(文学部フランス文学科2年 津田あや)

プログラム

14:30 開場

15:00 開演

ピアノ紹介

トビュッシー

ベルガマス組曲より『月の光』

高槌 満帆さん

坂本龍一

戦場のメリークリスマス

茨木 万里江さん

J.S.バッハ

カンタータ147番より

『主よ、人の望みの喜びよ』

ピエトロ・マスカーニ

カヴァレリア・ルスティカーナ間奏曲

太田 みなみさん

今後への願い

15:30 閉演

ピアノ紹介

ドイツ人神父によって上智大学へ運ばれた
というこのピアノは、ベーゼンドルファー
製 (Bosendorfer) のもので、世界三大
ピアノのひとつに数えられます。

「ウィーンの至宝」とも呼ばれるこのピ
アノの音色にはフランツ・リストも驚愕した
と言われます。

大学に残る記録を辿ると、今からおよそ
90年前の1932年、1号館の完成を祝う
落成式に遡ります。

大講堂の舞台上、初めて大学の校歌が
歌われた折に使用されたのです。

現在は調律も難しく、6号館1階のこの場所
に佇むピアノ。

ついに今、90年の時を超えて蘇ります。

関連情報

学生記者によるピアノについての記事が
大学公式サイト「FIND SOPHIA | 上智学生
記者クラブ通信」に掲載されています。
よろしければ併せてご覧ください。



<https://findsophia.jp/sophia-topics/20230707-bosendorfer/>

